

CL-1758

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CL-1758 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2008 年 6 月 17 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではありません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みにになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応となりますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 納品日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障または破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証のお申し込み手順】

弊社の製品保証規定に従い保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) **不具合の確認**……製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口へ連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) **本規定に基づく製品保証のご依頼**……(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『製品納品日が証明できる書類』を用意して、製品を購入された販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) **製品の発送**……不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品／液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～3 年	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～2 年	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品納品日から30 日以内に弊社または販売店に申告を頂いた不具合を初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途お問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類はDOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL(生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された場合に適用されます。それ以前に購入された製品については、1年間の保証となります。

【補足】

- ・本規定はATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ケーブル類・電源アダプタは初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。
- ・製品保証を受けるにあたり、製品の納品日が証明できない場合は製品のシリアルナンバーから判別した製造日を起算日とします。ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、全て有償修理とさせていただきます。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

FCC.....	9
RoHS	9
SJ/T 11364-2006	9
安全にお使い頂くために	10
一般的な注意.....	10
ラックへのマウント.....	12
同梱品	13
本マニュアルについて.....	14
マニュアル表記について	15
第1章 はじめに	16
特長.....	18
必要システム構成.....	19
コンピュータ	19
ケーブル.....	20
製品各部名称	22
フロントパネル	22
リアパネル.....	25
第2章 ハードウェアセットアップ	26
セットアップの前に.....	26
標準ラックマウントキット.....	27
単体使用	29
接続図	30
2段階カスケード接続.....	31
接続図	32
3段階カスケード接続.....	33
接続図	34
第3章 基本操作	35
コンソールを開く.....	35
コンソールを閉じる.....	36
操作上の注意事項	37
LCD の OSD 設定	38
LCD ボタン	38
LCD 調整の設定	39

ポート選択方法	40
ポートスイッチの手動操作	40
OSD	40
ホットキー	40
ホットプラグ	41
KVM ポートのホットプラグ	41
コンソールポートのホットプラグ	41
終了と再起動	42
ポート ID の割り振り	43
第 4 章 OSD 操作	44
OSD 概要	44
OSD ナビゲーション	46
OSD メイン画面 項目	46
OSD 機能	47
F1 GOTO	47
F2 LIST	48
F3 SET	49
F4 ADM	51
F7 SCAN	55
第 5 章 ホットキー操作	56
ホットキーモードの起動	56
ホットキーモードが有効である場合	57
ホットキーによるポートアクセス	58
アクティブポートの選択	58
オートスキャン機能	59
ホットキーの設定	60
ホットキー起動キーの変更	60
OSD 起動キーの変更	60
プラットフォームの設定	61
ビープ音の設定	62
デフォルト設定の復元	62
ホットキー一覧表	63
第 6 章 キーボードエミュレーション	64
Mac キーボード	64
Sun キーボード	65
第 7 章 ファームウェアアップグレードユーティリティ	67

作業をはじめる前に	67
アップグレード作業	69
アップグレード成功	72
アップグレード失敗	72
ファームウェアアップグレードリカバリー	73
付録	74
製品仕様	74
KVM スイッチ台数と接続可能なコンピュータ台数の関連表	78
工場出荷時における OSD 初期設定一覧	79
トラブルシューティング	80
ログイン情報の削除	81
イーजीセットアップラックマウントキット	82
ok プロンプトの起動 (Sun Solaris)	86
ホットキーモード・OSD 専用起動キー	86
SPHD コネクタについて	86

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

一般的な注意

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品は相間電圧 230V の配電装置向けに設計されています。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と記載されている RJ-11 ケーブルを電話回線用モジュージャックに接続しないでください。

ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

CL-1758 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ CL-1758 KVM スイッチ
(標準ラックマウントキット取付済み) ×1
- ◆ カスタム KVM ケーブル × 2
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル × 1
- ◆ 電源ケーブルアダプタ × 1
- ◆ 英語版ユーザーマニュアル × 1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド × 1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CL-1758 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに: CL-1758 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。

第2章 ハードウェアセットアップ: 基本的なハードウェアセットアップの手順から、カスケード接続の方法まで、CL-1758 セットアップについて説明しています。

第3章 基本操作: CL-1758 の機能概要および操作方法について説明しています。

第4章 OSD 操作: CL-1758 の OSD (オンスクリーンディスプレイ) の詳細内容、および操作方法について説明しています。

第5章 ホットキー操作: CL-1758 のホットキー操作に関する機能概要、および操作手順について説明しています。

第6章 キーボードエミュレーション: Mac キーボードのエミュレーション、また Sun キーボードのエミュレーションについて対応表を用いて説明しています。

第7章 ファームウェアアップグレードユーティリティ: お使いの CL-1758 のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

Master View CL-1758 は1組のキーボード、モニタ、マウス(KVM)コンソールから複数のコンピュータにアクセスするためのコントロールユニットです。Master View 登場以前、1組のコンソールから複数のコンピュータを設定するには複雑でコストのかかるネットワークシステムを導入せざるを得ませんでした。CL-1758さえあればコストをかけることなく簡単に複数のコンピュータにアクセスすることができます。

1台のCL-1758で最大8台のコンピュータを管理することができます。また、本製品は最大3段階のカスケード接続に対応しておりますので、CL-1758のカスケード接続対応機種であるCS-1758を最大72台接続した場合には、512台のコンピュータを1台目KVMスイッチのコンソールから管理することが可能です。

CL-1758はキーボード、LCDモニタ、タッチパッドを統合しスライド収納するデザインを採用したKVMドローです。システムラック内の省スペース化や作業効率の向上といった点において、その効果を発揮します。LCDモニタは上部パネルに、キーボード・タッチパッドは下部パネルにそれぞれ設計されており、作業時には両パネルをラックから引き出し、上部のLCDパネルを起こしてモニタ部分を手前に向けて使用します。また、作業が終わったら、LCDパネルを閉じて両パネルをラックに収納します。

製品の利便性と柔軟性を追求し、CL-1758はセカンドコンソールにも対応しております。セカンドコンソールではPS/2対応のキーボードやマウスを使用するのが一般的ですが、CL-1758のセカンドコンソールではPS/2・USBの両方に対応しております。ユーザーはKVMスイッチに接続するコンピュータに合わせて、PS/2対応ケーブルかUSB対応ケーブルを選択し、コンピュータとスイッチを接続することでポートの種類を問わずご利用いただけます。(ケーブルの詳細についてはp.20参照)

CL-1758は1Uサイズのラックのマウントに対応したスライド収納が可能なデザインになっており、また、フロントパネルは製品本体から延長することも可能です。CL-1758は通常のKVMスイッチに見られる25ピンではなく、高密度15ピンコネクタを搭載しているのも特徴です。この省スペース設計によって、KVM信号転送

の安定性・効率性の向上がもたらされ、それと同時に、多くのラックにありがちなケーブルの束も減り、すっきりと収納することができます。

CL-1758 は付属のファームウェアアップグレードユーティリティによって動作保障されております。ファームウェアの最新版は弊社 Web サイトにて提供しておりますので、本ユーティリティをご利用いただき簡単にアップグレードを実行することで、お使いの製品の最新機能を常に保つことができます。

CL-1758 に接続されたコンピュータには、マウス操作が可能な OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニュー、またはキーボードからのホットキー入力によって、簡単にアクセスすることができます。また、便利なオートスキャン機能によって、CL-1758 に接続されたコンピュータを一定の時間間隔で一台ごとに自動的にモニタリングすることも可能です。

セットアップは、ケーブルのコネクタを該当ポートに接続するだけです。簡単で時間もかかりません。ソフトウェアによる設定や定期的なメンテナンス作業も不要です。互換性の問題に悩まされることもございません。また、CL-1758 はキーボードエミュレート機能を搭載しており、マルチプラットフォームに対応可能です。PC 互換、Mac*、Sun*などのプラットフォームが混在した環境下でも導入いただくことができます。

時間とコストの削減に関して、CL-1758 の右に出る製品はないと自負しております。1 組のコンソールからスイッチに接続された全コンピュータの管理が可能です。CL-1758 を導入することで以下のメリットが得られます。

- 1) コンピュータ別にキーボード、モニタ、マウスを購入する費用の削減
- 2) これらのキーボード、モニタ、マウスが占有するスペースの縮小
- 3) 光熱費の削減
- 4) 作業のたびにコンピュータ間を移動する煩雑さの解消

注意: * Mac または Sun のコンピュータを CL-1758 に接続する場合は、USB 対応ケーブルを使用してください。(p.20 参照)

特長

- ◆ 15/17 インチ LCD モニター一体型デュアルスライドドロー
- ◆ 1U ラックの空きスペースに収納可能なデザインラックでの作業もスムーズに行うことが可能
- ◆ 省スペース設計ー2 コンソールから 8 台のコンピュータを操作可能
- ◆ 3 段階のカスケード接続に対応ー最大 512 台のコンピュータを 1 組のコンソールから操作することが可能
- ◆ デュアルインタフェース対応ーPS/2 キーボード・PS/2 マウス、または USB キーボード・USB マウスを接続することが可能*
- ◆ セットアップソフトウェア不要ーコンピュータの選択方法としてマウス操作可能なオンスクリーンディスプレイ(OSD)とホットキーを提供
- ◆ オートスキャン機能ーユーザーが選択したコンピュータのみをモニタリング
- ◆ ホットプラグ対応ースイッチの電源を落とすことなくコンピュータの接続・取り外しが可能
- ◆ 2レベルパスワードセキュリティー権限のあるユーザーのみを対象にコンピュータのモニタリング・操作を許可ー最大で4名のユーザー、1名のアドミニストレーターを個別に作成することが可能
- ◆ VGA 解像度
 - DDC、DDC2、DDC2B 準拠
 - DDC エミュレーション対応
 - 接続されたコンピュータのビデオ設定は自動で最適化されて表示
- ◆ ファームウェアアップグレード可能
- ◆ マルチプラットフォーム対応ーWindows、Mac、Sun のホストシステムに対応、Windows 98SE/ME/2000/XP/2003、Mac OS 8.6 以降、Solaris、Linux 対応

注意: * PC 互換機のみ対応。Mac または Sun のコンピュータを CL-1758 に接続する場合は、USB 対応ケーブルを使用してください。(p.20 参照)

必要システム構成

コンピュータ

お使いになるコンピュータには以下のデバイスが搭載されている必要があります。

- ◆ VGA、SVGA、またはマルチシンクカード

注意: CL-1758 の LCD モニタの最大解像度は 1,024×768@75Hz (15 インチ)、1,280×1,024@75Hz (17 インチ) です。使用前に、お使いのコンピュータに設定されている解像度がこの設定の範囲内であることを確認してください。

- ◆ USB タイプ A ポート、または PS/2 キーボード・マウスポート (ケーブルの詳細は次のセクションを参照ください。)

ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。理想的な状態でデータ転送を行うためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、専用 KVM ケーブルをご使用ください。ケーブルの長さは下記の表の通り各種取り揃えております。

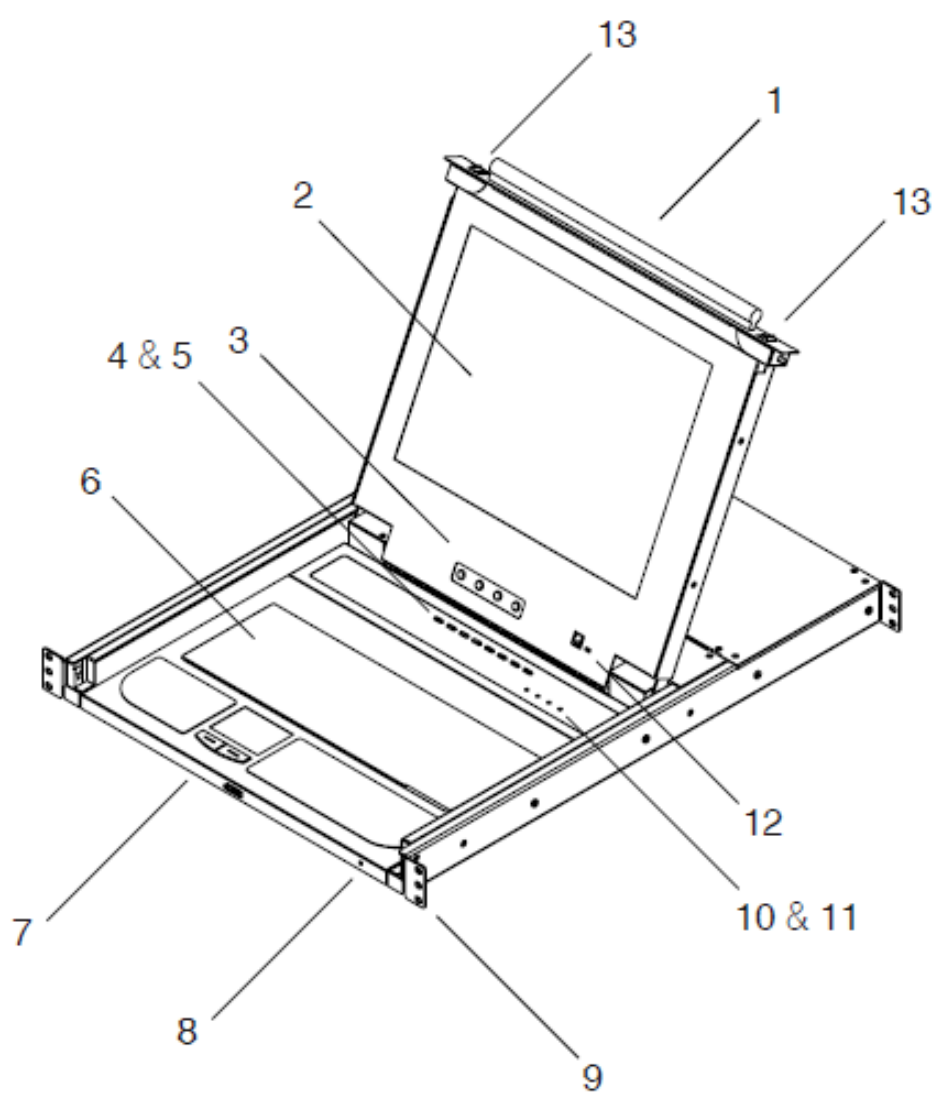
また、接続するコンピュータの仕様に応じて PS/2 対応ケーブル、USB 対応ケーブル等をお選びいただけます。(p.30 参照)

製品画像	機能	型番(長さ)
	PS/2 KVM ケーブル	
	スイッチ側 SPHD-15 オス ×1	2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m)
	コンピュータ側	2L-5203P(3m) 2L-5206P(6m) 2L-5210P(10m)
	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニタ用 D-sub15 ピン オス	
	PS/2 KVM ケーブル	
	スイッチ側 SPHD-15 オス ×1	2L-5702P(1.8m)
	コンピュータ側	
	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニタ用 D-sub15 ピン オス	
	USB KVM ケーブル(製品同梱ケーブル) (Windows、Linux、新 Sun、Mac)	2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m)
	スイッチ側 SPHD-15 オス ×1	2L-5203U(3m)
	コンピュータ側	2L-5205U(5m)
	USB タイプ A オス モニタ用 D-sub15 ピン オス	
	旧 SUN システム専用ケーブル	
	スイッチ側 SPHD-15 オス ×1	CV-130A(1.8m)
	コンピュータ側	
	13W3 ピン オス ミニ DIN8 ピン オス	

これらのケーブルをお求めの際には、お手数ですが販売店までご連絡ください。また、CL-1758 のカスケード接続に使用するケーブルについては p.76 の製品仕様の表にある「カスケード用ケーブル」の項目をご参照ください。

製品各部名称

フロントパネル

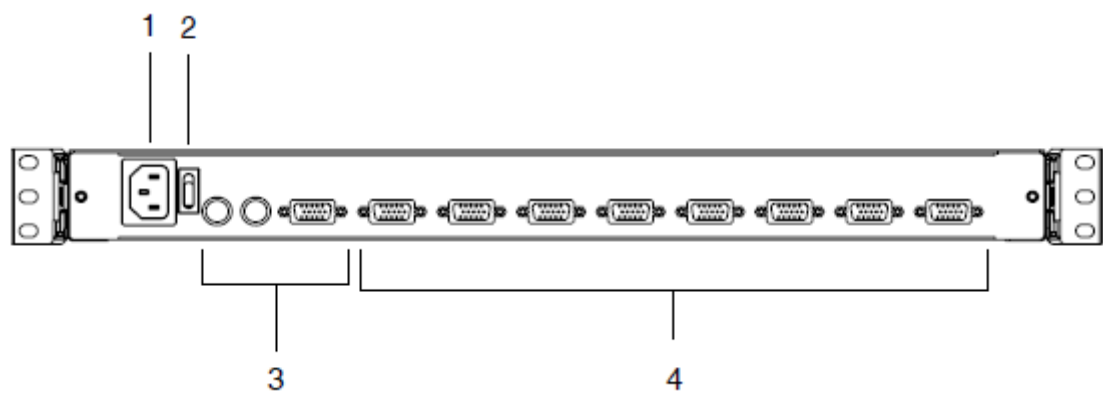


No.	名称	説明
1	ハンドル	LCD パネルの引き出し・収納作業を行うときに使用します。(本表の項目 13 を参照)
2	LCD パネル	ドロワーをラックから引き出した後、上部カバーを開けてご利用いただけます。
3	LCD コントロール	LCD のオン/オフのスイッチ、表示画面の位置・画像調整のボタンはここに配置されています。詳細は p.38 をご参照ください。
4	ポートスイッチ	このスイッチを押すと対応するポートに接続されたコンピュータをスイッチ上で選択することができます。詳細は p.40 をご参照ください。
5	ポート LED	2 つのポート LED はポートスイッチに内蔵されています。左側の LED はオンライン LED、右側の LED は選択ポート LED です。 ◆ オンライン LED はオレンジ色に点灯し、そのポートに接続されているコンピュータが稼動中であることを表します。 ◆ 選択ポート LED は緑色に点灯し、そのポートが選択されていることを表します。この LED は通常時は点灯したままですが、ポートがオートスキャンモードでアクセスされているときには点滅します。
6	キーボード	
7	タッチパッドパネル	
8	電源 LED	ブルーに点灯し、電源がオンになっていることを示します。
9	ラックマウントタブ	ラックへの搭載時、ネジ止めを行います。ラックマウントの詳細に関しては p.82 をご参照ください。
10	ロック LED	Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各 LED です。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
11	リセットスイッチ	ピンなどの先の尖ったものでこのスイッチを押して、システムのリセットを行います。
12	ファームウェアアップグレード	◆ ファームウェアアップグレードポート:管理者のコンピュータからファームウェアのデータを CL-1758 に転送する際に、RJ-11 コネクタをこのポートに接続します。 ◆ ファームウェアアップグレードスイッチ:通常の操作時にはこのスイッチが「NORMAL」の位置にセットされている必要があります。(ファームウェアのアップグレードについては p.67 を参照)
13	スライドリリース	パネルを引き出す際には、最初にこのタブを内側にスライドさせてロックを解除する必要があります。パネルの出し入れについては p.35 をご参照ください。

リアパネル



No.	名称	説明
1	電源ソケット	IEC 60320 C14 3 極ソケットです。AC 電源コードを接続してください。
2	電源スイッチ	
3	セカンドコンソール	セカンドコンソールで使用するキーボード、モニタ、マウスの各コネクタはここに接続します。
4	KVM ポート	コンピュータに接続されているケーブルをここに接続します。 注意: この黄色い SPHD コネクタは、ATEN KVM ケーブル専用設計されたものです(ケーブルの詳細については p.20 参照)。モニタの接続に使用する D-Sub 15 ピンコネクタなどを誤って接続しないよう、ご注意ください。

第2章 ハードウェアセットアップ

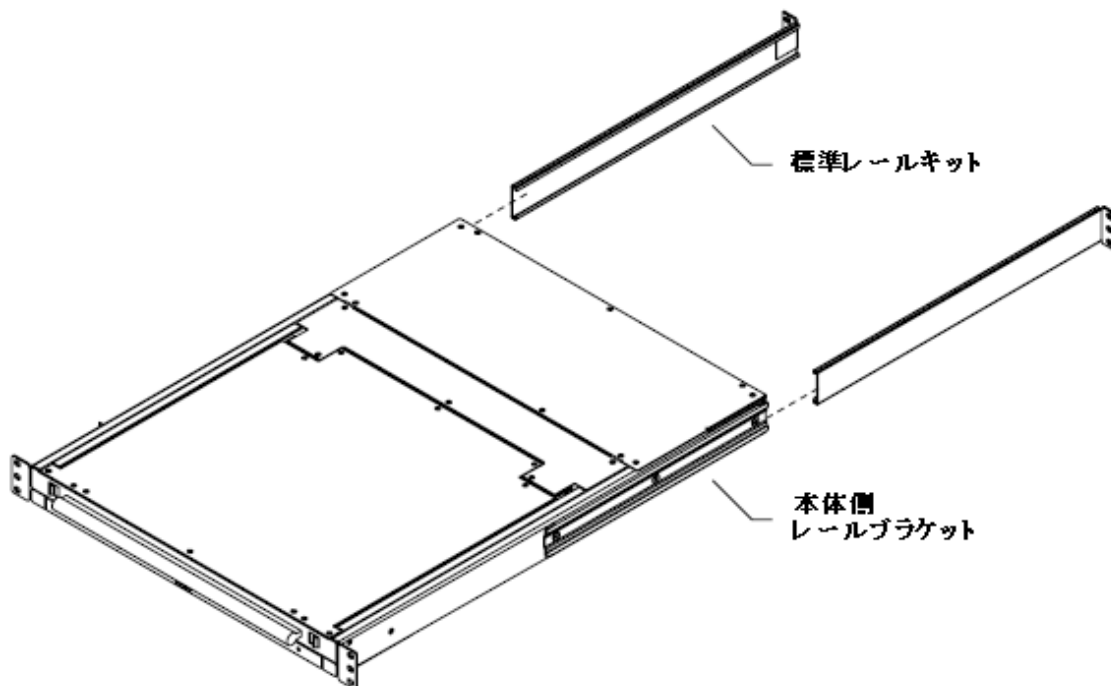
セットアップの前に



1. 機器の設置に際し重要な情報を p.10 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。

標準ラックマウントキット

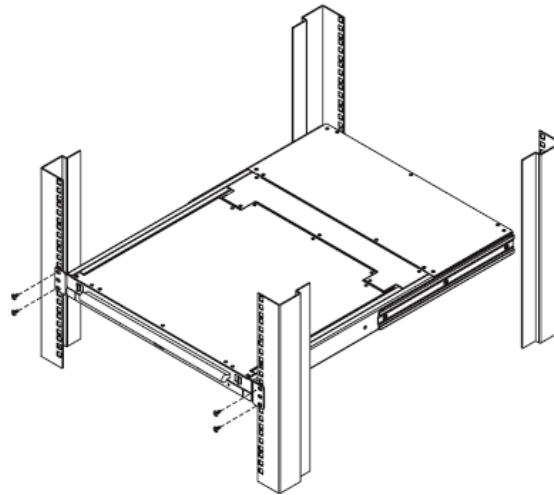
CL-1758 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されます。標準ラックマウントキットを使用してマウンティングが可能なラック支柱奥行きは、42～77cm です。



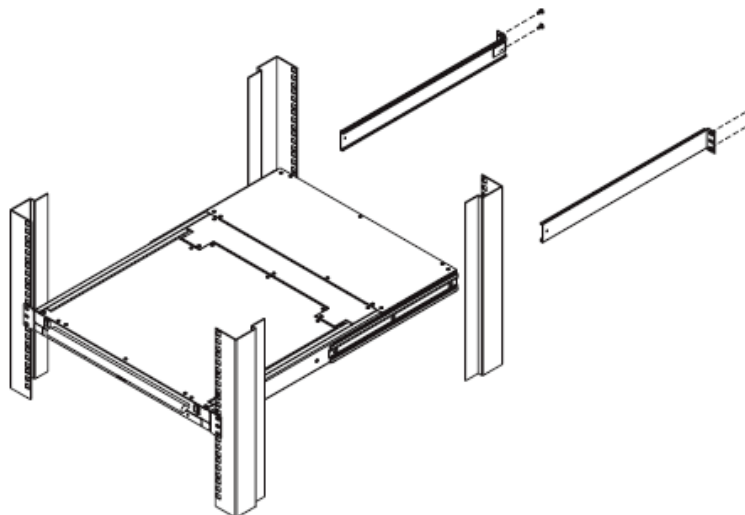
-
- 注意:**
1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者とで、複数で行ってください。
 2. ラックへの取付に使用するネジおよびケージナットは製品に同梱されていません。お手数ですが、ラックに対応したネジとケージナットをご用意ください。
 3. オプションの**イージーセットアップラックマウントキット**が製品に同梱されています。イージーセットアップラックマウントキットの取付方法は p.82 をご参照ください。
-

標準ラックマウントキットでのラックへの取付は、下記の手順で行ってください。

1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者と、複数で行ってください。最初にフロント側タブのネジ止めを行います。



2. 製品を取付位置で保持したまま、他の作業者は標準レールキットを製品リア側から差し込み、取付長を調整して、ネジ止めしてください。



3. 最後に全てのネジがしっかりと固定されていることを確認してください。

注意: 適切なエアフロー確保のために製品両側に少なくとも 5cm 程度、ケーブル取り回しのスペースを確保するために製品リア側に少なくとも 13cm 程度の余裕を設けて設置してください。

単体使用

CL-1758 を単体で使用する場合は、次のページ以降の接続図 (図中の番号は手順の番号に対応) を参考にし、セットアップを以下の手順で行ってください。

1. セカンドコンソールを利用する場合は、キーボード、マウス、モニタの各コネクタをリアパネルにあるコンソールポートに接続してください。ポートにはわかりやすくするため、接続するデバイスのアイコンと PC99 準拠のカラーリングが施されています。
2. KVM ケーブル (p.20 参照) の SPHD コネクタを CL-1758 のリアパネルにある KVM ポートに接続してください。
3. 手順 2 で使用した KVM ケーブルの別の一端を接続します。
 - a) USB ポートを使用する場合は、USB、モニタの各コネクタをコンピュータの該当ポートにそれぞれ接続します。
 - b) PS/2 ポートを使用する場合は、キーボード、マウス、モニタの各コネクタをコンピュータの該当ポートにそれぞれ接続します。

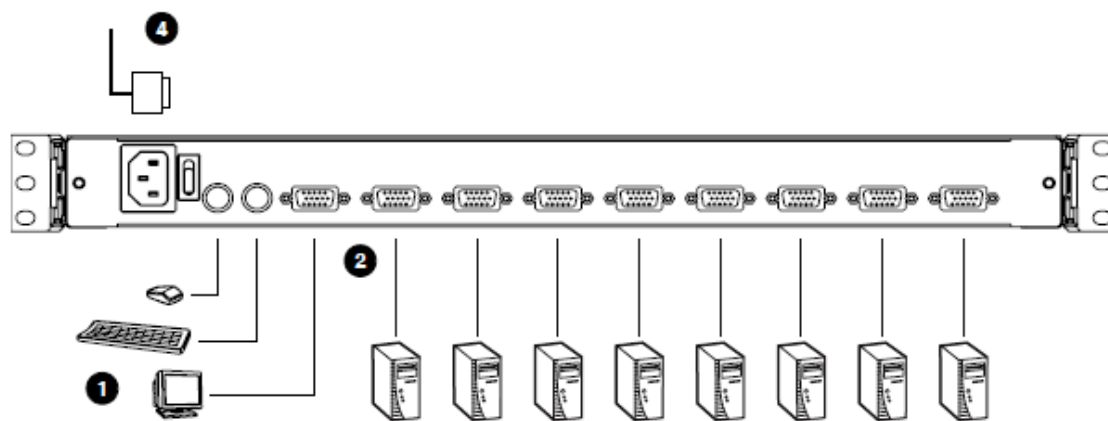
注意: スイッチに接続するコンピュータが複数ある場合は、手順 2 および手順 3 を繰り返してください。

4. 製品同梱の電源コードをスイッチの電源ソケットに接続し、コンセントに挿します。

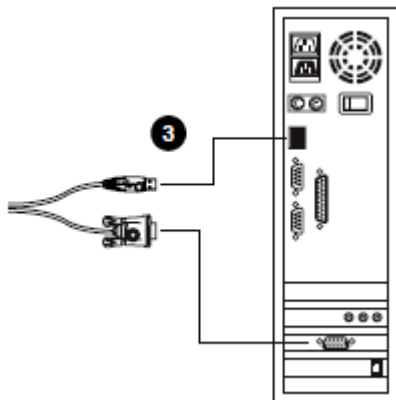
以上の操作で、CL-1758 を単体でご使用いただけますので、スイッチに電源を入れてください。スイッチに電源が入ったら、スイッチに接続されているコンピュータに電源を入れてください。

注意: CL-1758 に電源を入れると、初期状態では 1 番目のポートが選択されています。

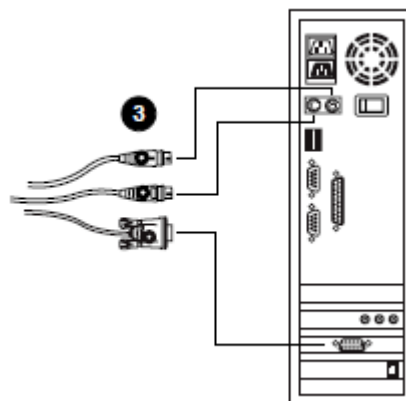
接続図



USB 接続



PS/2 接続



2 段階カスケード接続

CL-1758 のポート数を越える台数をスイッチに接続したい場合でも、カスケード接続対応機種である CS-1758 を最大 8 台接続することで対応が可能です。1 台目の CL-1758 にカスケード接続された KVM スイッチは 2 段階目の機器として認識されます。2 段階のカスケード接続によって、最大 64 台のコンピュータを管理することができます。コンピュータの台数と必要となるスイッチの台数との関連表は p.78 をご覧ください。

2 段階のカスケード接続をする場合は、次ページの接続図を参考にし、以下の手順で作業を行ってください。

1. スイッチに接続されているコンピュータおよびカスケード接続で使用する機器の電源がすべて切られていることを確認してください。
2. USB KVM ケーブル(p.20 参照)で、1 段階目の機器となる CL-1758 の KVM ポートと、2 段階目に使用するスイッチのコンソールポートを接続します。

注意: USB コネクタは 2 段階目の機器のリアパネル内のコンソール用 SPHD ポートの隣にある USB ポートに接続してください。(SPHD・USB ポート共に、カスケード接続専用であるアイコンが表示されています。)

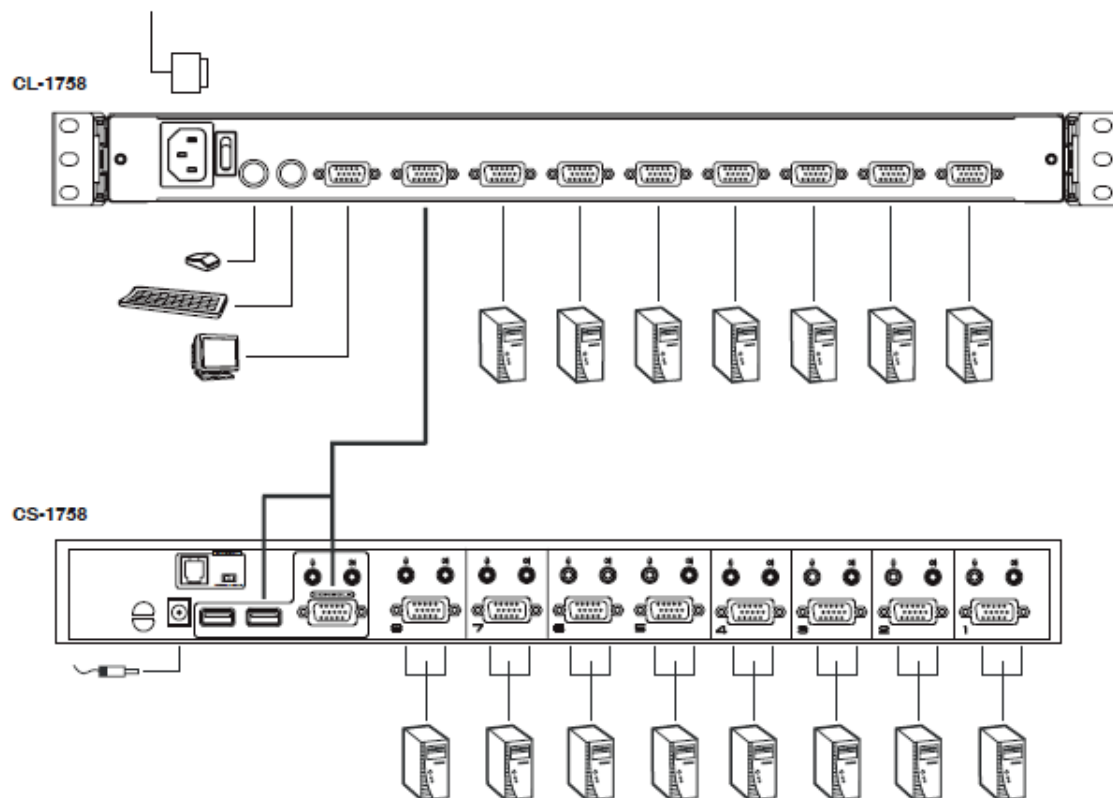
3. KVM ケーブル(p.20 参照)の SPHD コネクタをスイッチの KVM ポートに接続します。

注意: オーディオ対応 KVM スイッチを CL-1758 にカスケード接続しても、CL-1758 ではオーディオ機能に対応していないため、オーディオ機能はご利用になれません。ご了承ください。

4. 手順 3 で使用したケーブルの別の一端を下記の手順に従って接続します。
 - a) USB ポートを使用する場合(p.30 参照)、USB、D-sub15 ピンの各コネクタをコンピュータ側の該当ポートに接続します。
 - b) PS/2 ポートを使用する場合(p.30 参照)、キーボード、マウス、モニタの各コネクタをコンピュータ側の該当ポートに接続します。
5. 他にも KVM スイッチに接続するコンピュータがある場合は、手順 3 および手順 4 を繰り返してください。

6. 2 段階目の機器として使用するスイッチの電源ジャックに電源ケーブルを接続し、AC 電源に挿してください。
7. 1 段階目の機器に電源を入れてください。
8. 機器に接続されたコンピュータにすべて電源を入れてください。

接続図



注意: 電源を入れて KVM スイッチをお使いになる際には、まず 2 段階目の機器に電源を入れる必要があります。2 段階目のスイッチにすべて電源が入ったことを確認してから、1 段階目のスイッチに電源を入れてください。スイッチに接続されているコンピュータには使用する KVM スイッチにすべて電源が入った後で電源を入れます。

3 段階カスケード接続

3 段階カスケード接続の方法は、基本的には 2 段階のカスケード接続と同様の手順で行います。3 段階のカスケード接続によって、最大 512 台のコンピュータを接続することが可能です。コンピュータの台数と必要となる KVM スイッチの台数の関連表は p.78 に掲載しております。

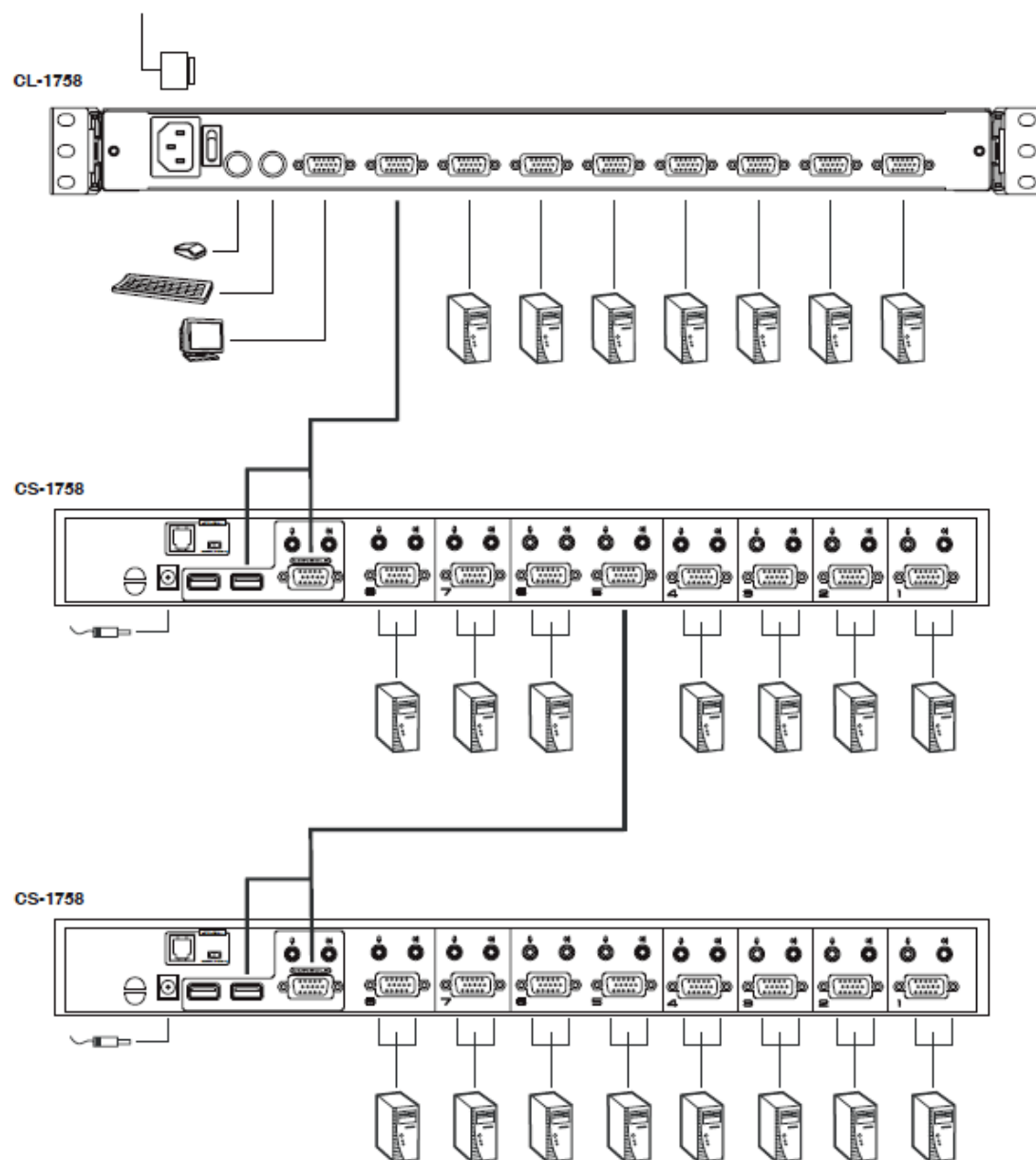
注意： 本製品は最大 3 段階のカスケード接続に対応しておりますが、それ以上のカスケード接続はできませんのでご了承ください。

3 段階カスケード接続をセットアップするには、次ページの接続図を参考にして作業を行ってください。使用するケーブルの接続がすべて完了したら(必要であれば p.31 の「2 段階カスケード接続」を参照)、下記の手順に従って機器に電源を入れてください。

1. 3 段階目の機器として使用するスイッチの電源ジャックに電源アダプタケーブルを接続し、電源アダプタを AC 電源に接続してください。
2. 2 段階目の機器として使用するスイッチの電源ジャックに電源アダプタケーブルを接続し、電源アダプタを AC 電源に接続してください。
3. 1 段階目の機器 (CL-1758) に電源を入れてください。
4. KVM スイッチに接続されている全コンピュータに電源を入れてください。

注意： 電源を入れて KVM スイッチをお使いになる際には、まず 3 段階目の機器に電源を入れる必要があります。3 段階目のスイッチにすべて電源が入ったことを確認してから、2 段階目のスイッチに電源を入れ、そのあとで 1 段階目のスイッチに電源を入れてください。スイッチに接続されているコンピュータには使用する KVM スイッチにすべて電源が入った後で電源を入れます。

接続図

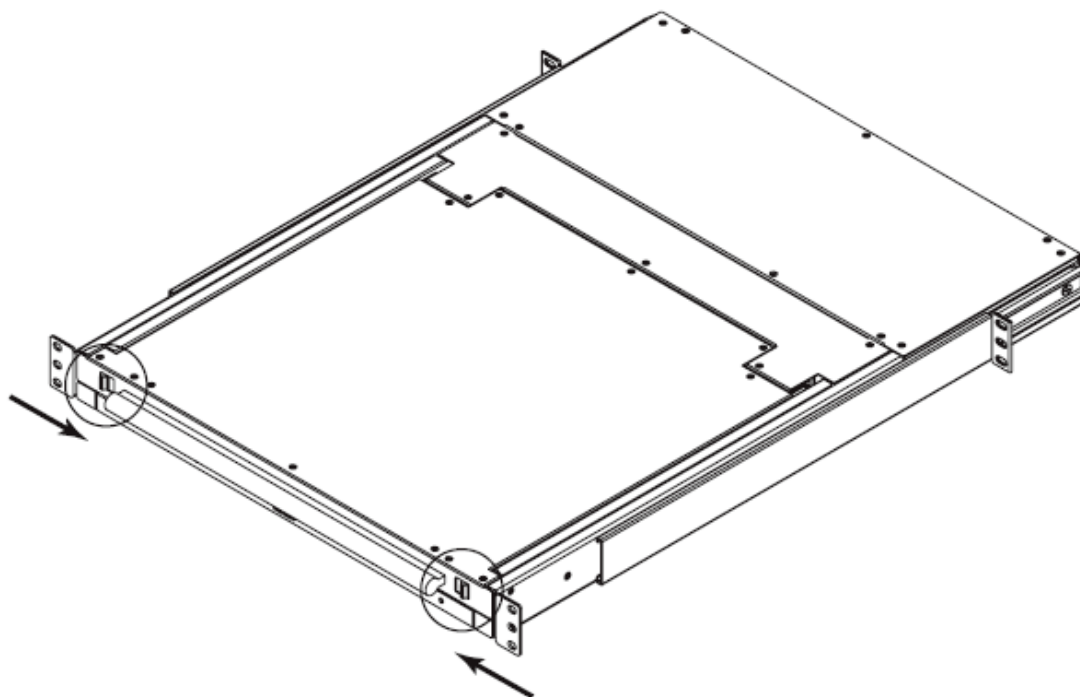


第3章 基本操作

コンソールを開く

CL-1758 のコンソールは上部カバーの下に設計されています。コンソールを使用する場合は、パネルを引き出し、上部パネルを起こしてください。

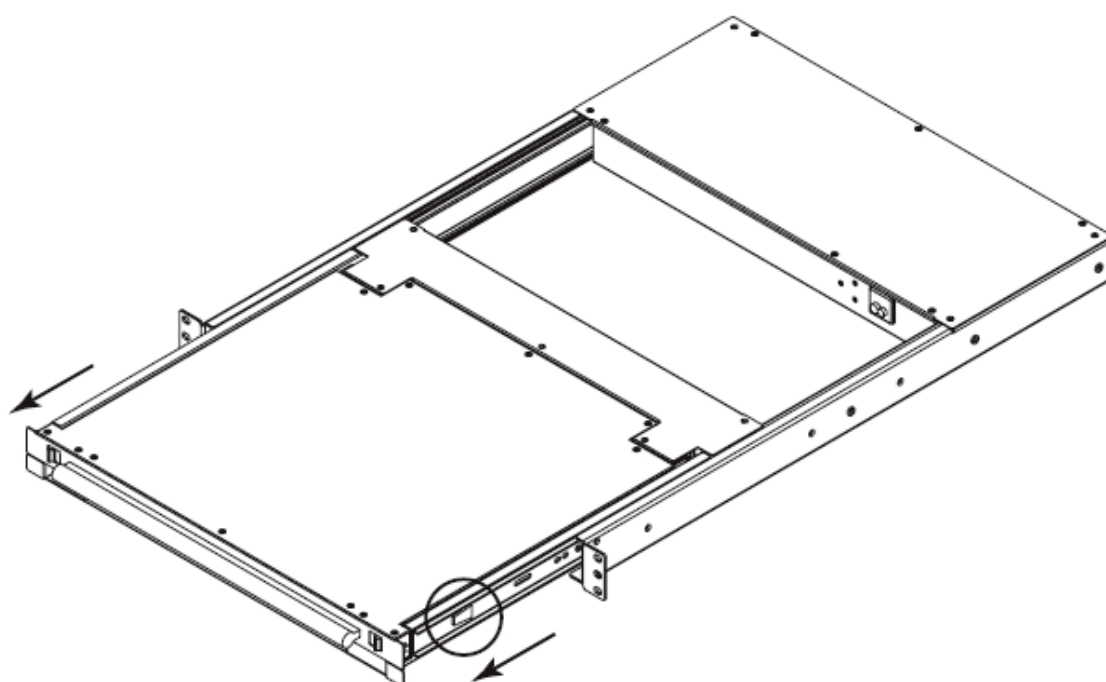
注意： 安全にお使いいただくために、コンソールを誤って引き出さないようにコンソールは内側にロックされています。パネルを引き出す前に、フロントパネルに備え付けられているキャッチをスイッチの中央方向にスライドさせることによって、ロックを解除する必要があります。



コンソールを閉じる

パネルを収納する場合は、以下の手順に従ってコンソールを閉じてください。

1. 両サイドにあるキャッチを手前に引き出し、パネルを奥にスライドさせます。
2. キャッチのロックを解除し、パネルをやや手前に引き出した後、奥にスライドさせます。

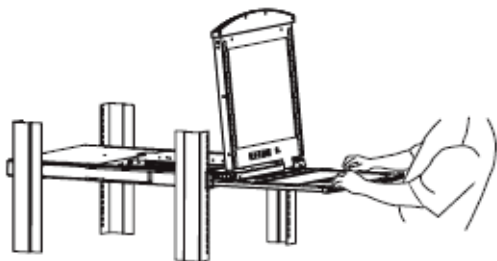
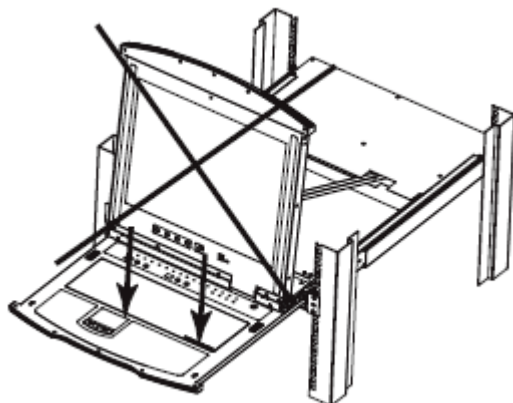


注意: このように 2 段階の手順を踏んで操作を行うのは、パネルをラックにスライドさせて格納させる際に指を挟んでケガをするのを防ぐためです。安全にお使いいただくためにも、この操作手順に従って作業するようにしてください。

操作上の注意事項



キーボードパネルはある程度の加重に耐えるよう設計されておりますが、安全にお使い頂くため、長時間無理な力がかからないようにご使用ください。

	正しい使用方法 手を軽くキーボードに置いて作業する。
	間違った使用方法 ◆ キーボードに体重をかけないでください。 ◆ キーボードに重いものを載せないでください。

LCD の OSD 設定

LCD ボタン

LCD パネルの OSD によって、ディスプレイの設定を行うことができます。設定には下記の表にある4つのボタンを使用します。

ボタン名称	機能
MENU	◆ OSD メニュー機能を操作していない場合にこのボタンを押すと OSD メインメニューが表示されます。 ◆ ナビゲーションボタン(  または  )で OSD メニュー項目の選択をしている際にこのボタンを押すと、各値の調整画面が表示されます。
 	このボタンでメニューの右または上を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を増やすことができます。
 	このボタンでメニューの左または下を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を減らすことができます。
EXIT	◆ OSD メニュー機能を使用していない場合にこのボタンを押すと OSD 側で最適な LCD の設定を自動検出し、設定を行います。 ◆ OSD メニュー機能を使用している場合にこのボタンを押すと、現在のメニューから前のメニューに戻ります。設定が完了した場合は、このボタンで調整メニューを終了します。 ◆ メインメニューを操作している場合にこのボタンを押すと OSD メニュー機能を終了します。

LCD 調整の設定

下記の表は LCD スクリーンの OSD 調整の設定に関する説明です。

設定	説明
Brightness (明るさ)	スクリーンイメージのバックグラウンドの黒色レベルを調整します。
Contrast (コントラスト)	スクリーンイメージのフォアグラウンドの白色レベルを調整します。
Phase (フェーズ)	画面にチラツキ、ノイズが出ている場合には、フェーズを調整してください。
Clock (クロック)	画面縦方向の波(モアレ)が生じている場合には、クロックを調整してください。
H-Position (水平位置)	LCD パネル内の表示部分の横方向の位置を設定します。 (表示画面を左右の方向に動かして調整します)
V-Position (垂直位置)	LCD パネル内の表示部分の縦方向の位置を設定します。 (表示画面を上下の方向に動かして調整します)
Color Temperature (色温度)	表示画面の色味を調整します。赤みの度合いやカラーバランスなどを調整することができます。「Adjust Color」メニューを選択すると、サブメニューでさらに細かく RGB 値を調整することができます。
Language (言語)	OSD メニューに表示される言語を選択します。
OSD Duration (OSD 表示時間)	OSD 画面が LCD の画面上に表示される時間の設定を行います。設定時間に何も入力しないと OSD 画面は終了します。
Reset (リセット)	すべてのメニューを工場出荷時の設定にリセットします。 注意: 言語の設定はご自身がセットした値が有効になっておりますので、工場出荷時の初期設定値には戻りません。

ポート選択方法

CL-1758 ではポートスイッチの手動操作、OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニュー、ホットキーといったポート選択方法をご用意しております。

ポートスイッチの手動操作

CL-1758 のポートスイッチを手動で操作してポート切替を行う場合は、アクセスしたいコンピュータに対応するポートスイッチを押してください。

CL-1758 にカスケード接続された KVM スイッチで手動切替を行う場合は、まず、アクセスしたいコンピュータが接続している KVM スイッチの親機にある該当ポートスイッチを押した後、コンピュータが接続している KVM スイッチの該当スイッチを押してください。

OSD

OSD 機能を使用するとメニュー形式のインターフェースからポートの切替を行うことができます。OSD 操作については次の章で詳しく説明します。

ホットキー

ホットキーを使用すると、手動でポートスイッチを操作することなく、キーボードから直接、目的のコンピュータに切り替えることができます。ホットキーの操作については、第 5 章で詳しく説明します。

ホットプラグ

CL-1758 はホットプラグ対応製品です。製品をシャットダウンすることなく、ケーブルを抜き差しするだけでコンポーネントのつけかえが可能です。ホットプラグ機能が正しく動作するために、下記の手順に従ってお使いください。

KVM ポートのホットプラグ

KVM スイッチからコンピュータをはずす場合は、KVM スイッチの KVM ポートに接続されているケーブルを一旦抜いて、挿しなおすだけで作業は完了です。

1. 一度抜いたケーブルを挿しなおす際には、抜く前と同じポートに挿す必要があります。
2. ケーブルを挿しなおしたら、1 段階目のスイッチのリセットボタンを押して KVM リセットを行う必要があります。

注意: お使いのコンピュータの OS がホットプラグに対応していないと、本製品のホットプラグ機能が正しく動作しない場合がございます。

コンソールポートのホットプラグ

CL-1758 はセカンドコンソールのキーボード、マウスおよびモニタのホットプラグにも対応しております。CL-1758 のセカンドコンソールのマウスポートからマウスをホットプラグするには以下の注意事項に従ってください。

- ◆ マウスを挿しなおす場合は、同一のマウスを使用するようにしてください。
- ◆ 異なるマウスを使用する場合は、CL-1758 に接続された全ステーション・全コンピュータをシャットダウン後、10 秒間待機してから再起動を行ってください。（必要であれば p.33 に記載されている電源を入れる順序に関する注意書きをご参照ください）

注意: マウスやキーボードの入力に対して反応がなくなり、再度ホットプラグを行っても問題が解決しない場合は、1 台目の機器で KVM リセットを行ってください。（リセットスイッチを押すことで KVM がリセットされます。）

終了と再起動

CL-1758 を再起動する前に、以下の作業を行ってください。

1. CL-1758 に接続されたコンピュータの電源をすべてシャットダウンしてください。また、CL-1758 にカスケード接続された KVM スイッチがある場合は、そのスイッチに接続されているコンピュータをすべてシャットダウンした後で、KVM スイッチの電源をお切りください。

注意: キーボード起動機能がついているコンピュータをお使いの場合、OS をシャットダウンしただけでは KVM スイッチ側でコンピュータに電源が入っていると認識されてしまいますので、コンピュータの電源ケーブルも抜くようにしてください。

2. 10 秒待機した後、KVM スイッチに電源を入れなおします。複数台の KVM スイッチを終了した場合は、最下位のスイッチから順に電源を入れなおしてください。
3. すべてのスイッチに電源が入ったら、スイッチに接続されているコンピュータに電源を入れてください。この場合も、最下位のスイッチに接続されているコンピュータから順に電源を入れるようにします。

ポート ID の割り振り

CL-1758 の各 KVM ポートには、固有のポート ID が割り振られます。どの段階の KVM スイッチであっても、OSD (p.44 参照) やホットキー (p.56 参照) の操作において KVM ポートに割り当てられたポート ID を指定することで、目的のコンピュータに直接アクセスすることができます。

ポート ID は最大 3 桁の数字で表現されます。このポート ID は、スイッチのステージレベルおよびコンピュータが接続されているスイッチの KVM ポート番号によって確定されます。

1 桁目の数字は 1 段階目のスイッチにおける KVM ポート番号を、2 桁目の数字は 2 段階目のスイッチにおける KVM ポート番号を、3 桁目の数字は 3 段階目のスイッチにおける KVM ポート番号をそれぞれ表しています。

- ◆ 1 段階目の機器に接続されたコンピュータのポート ID は、1 桁の数字 (1~8 を使用) で表され、そのコンピュータが接続している KVM ポート番号を表します。
- ◆ 2 段階目の機器に接続されたコンピュータのポート ID は、2 桁の数字で表されます。1 桁目は 2 段階目の機器との接続に使用されている 1 段階目の KVM ポート番号を表し、2 桁目はそのコンピュータが接続している 2 段階目の機器の KVM ポート番号を表します。
例えば、「2 3」というポート ID は、2 段階目の機器が 1 段階目の機器の 2 番目のポートに接続し、コンピュータが 2 段階目の機器の 3 番目のポートに接続していることを示しています。
- ◆ 同様に、3 段階目の機器に接続されたコンピュータのポート ID は、3 桁の数字で表されます。2 段階目に接続されたコンピュータのポート ID の例と同じように、「2 4 1」というポート ID は、2 段階目の機器が 1 段階目の機器の 2 番目のポートに接続し、3 段階目の機器が 2 段階目の機器の 4 番目のポートに接続し、コンピュータが 3 段階目の機器の 1 番目のポートに接続していることを示しています。

第4章

OSD 操作

OSD 概要

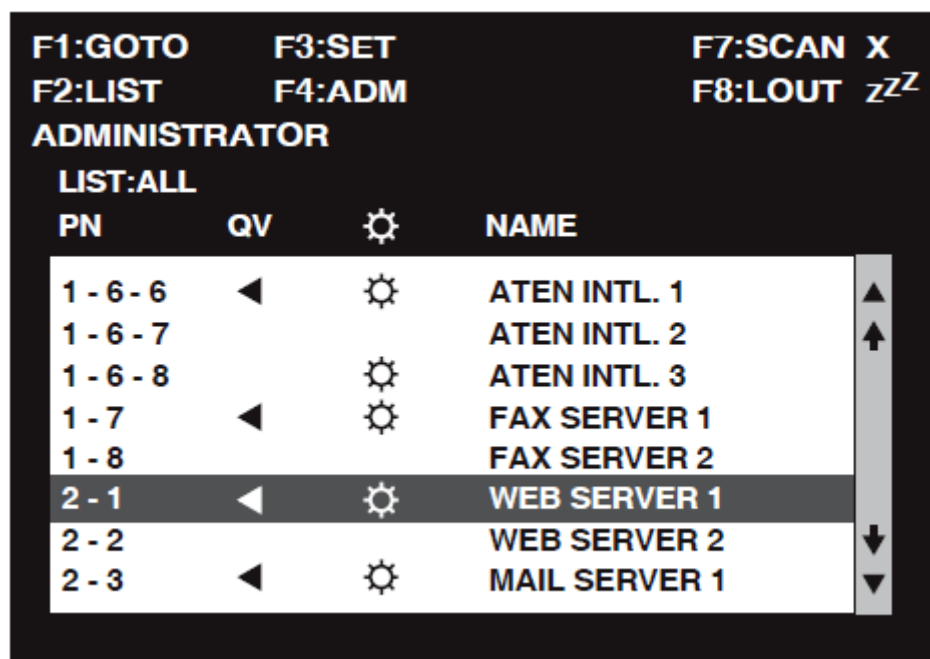
オンスクリーンディスプレイ(OSD)は、メニュー形式でCL-1758本体の諸設定および接続されたコンピュータの管理を行います。これらの操作はすべて OSD メインメニューから実行します。OSD メインメニューを呼び出すには、キーボードの専用 **OSD キー** (p.86 参照)を押す、または **[Scroll Lock]**キーを **2 度押し**してください。

注意: OSD 表示のホットキーはデフォルトの**[Scroll Lock]**キーから**[Ctrl]**キーに変更できます(詳細は p.49 を参照)。**[Ctrl]**キーの 2 度押しの際は、2 回とも同一**[Ctrl]**キーを使用するようにしてください(左側を 2 回、もしくは右側を 2 回)。

OSD では 2 段階の(アドミニストレーター/ユーザー)の権限を設定することが可能です。**[Scroll Lock]**キーを 2 度押すと、OSD メインメニューが表示される前に、ユーザーネームとパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。OSD メインメニューにアクセスするためには、これらを入力し、ログインする必要があります。

OSD 初回起動時やパスワードの設定がされていない場合、ダイアログボックスには何も入力せず、**[Enter]**キーを入力してください。OSD メインメニューがアドミニストレーターの権限で起動し、ユーザーアカウントの設定を含めたすべての OSD 機能が使用可能になります。

OSD メインメニューは、以下のように表示されます。



注意:

1. この画面はアドミニストレーター権限ログイン時のメインメニューです。F4の機能はアドミニストレーター権限を持つユーザー限定の操作に予約されていますので、ユーザー権限ログイン時のメインメニューでは、F4の項目は表示されません。
2. OSD は常にリストビューの状態が始まります。ハイライトバーは OSD 画面が最後に閉じられた時に表示されていた位置と同じ位置で表示されます。
3. アドミニストレーター権限でアクセス可能なポートを設定した場合、ユーザー権限でログインすると、そのユーザーがアクセス可能なポートのみがリスト表示されます(詳細は p.53 の「SET ACCESSIBLE PORTS」を参照)。

OSD ナビゲーション

- ◆ OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上に位置する×印をクリック、もしくは[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する F8:LOUT をクリック、もしくは OSD 画面右上の「ZZZ」マークをクリック、もしくはキーボードで[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリック、もしくはキーボードの上下の矢印キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、上下の矢印(↑↓)をクリック、もしくはキーボードの[Page Up][Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切り替える場合は、選択先のポートをダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの実行後は、自動的にメニューは 1 段階上の状態に戻ります。上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリック、もしくは上下の矢印キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。

OSD メイン画面 項目

項目	説明
PN	ポート ID 番号 (p.43 参照) を表示しています。KVM スイッチのコンピュータ側ポートは個別の番号を持っています。切替先のポート ID をクリックするか、そのポートにハイライトバーを移動し[Enter]を押すと、画面がそのポートに接続されたコンピュータに切り替わります。
QV	クイックビュー時に表示するポートを選択します(クイックビューポート設定の詳細は p.53 を参照)。クイックビューポートとして選択されているコンピュータには矢印が表示されます。
	ポートに接続されたコンピュータの電源がオンのとき、この太陽マークが表示されます。
NAME	各ポートに対して名前を登録することができます(p.52 の「EDIT PORT NAMES」を参照)。

OSD 機能

KVM スイッチの諸設定および接続されたコンピュータの管理を行う OSD 機能について説明します。OSD の各機能によって、任意のポートへのダイレクト切替、指定したポートのみを対象にしたスキャン、指定したリストのみを対象にした表示、クイックビューポートの設定、ポートネームの設定、OSD の設定等ができます。

OSD の各機能にアクセスするには以下の手順で操作してください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリック、もしくはキーボード上のファンクションキーを押します。
2. サブメニューが表示されますので、選択しダブルクリック、もしくはキーボードからハイライトバーを移動、選択し[Enter]を押します。
3. [Esc]キーを押すと、1 段階上のメニューに戻ります。

F1 GOTO

GOTO 機能により、ポートネーム、もしくはポート ID を入力することで、直接ポートを切り替えることが可能です。

- ◆ ポートネームを使用する場合、[1]キーを入力後、ポートネームを入力し[Enter]キーを押してください。
- ◆ ポート ID を使用する場合、[2]キーを入力後、ポート ID 番号を入力し[Enter]キーを押してください。

注意: ポートネームもしくはポート ID を入力すると、現在のリスト表示の設定(詳細は p.48 の「F2 LIST」参照)にかかわらず、該当するポートのうち、ユーザーが表示権限を持つもの(「SET ACCESSIBLE PORTS」の詳細は p.53 を参照)がすべて画面にリスト表示されます。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、[Esc]キーを押してください。

F2 LIST

この機能を用いて、OSD がメインメニューで表示するポートの範囲を設定できます。OSD ファンクションの多くは、メインメニューでリスト表示されているポートだけを操作します。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設定	内容
ALL	設置されているポート全てをリストアップします。
QUICK VIEW	クイックビューポート(p.53 をご参照ください)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON	接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(p.53 をご参照ください)として選択され、かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。

選択したいポートを OSD 画面上でダブルクリックするか、メニューのハイライトバーを移動して [Enter] キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

設定を選択し [Enter] を押すと、OSD メインメニューに戻ります。

注意:	アドミニストレーターのユーザー以外にはクイックビューの権限がありませんので、「QUICK VIEW」の項目はアドミニストレーターがログインした場合にのみ表示されます。(p.53 参照)
------------	--

F3 SET

この機能はアドミニストレーター権限および各ユーザー権限でログイン時の環境設定を行います。それぞれのユーザーの各プロファイルは KVM スイッチ内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。設定変更の手順は以下のとおりです。

1. 「F3 SET」の項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーをこの項目へ移動させ[Enter]キーを押してください。
2. 次に表示されたサブメニューの、変更したい項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動して[Enter]キーを押します。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

設定	機能
OSD HOTKEY	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピュータの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトは[Scroll Lock]キー 2 度押しになっています。
PORT ID DISPLAY POSITION	画面上のポート ID 表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上ですが、任意の位置にポート ID を表示することができます。 ポート ID の表示位置を決めるには、マウスまたは矢印キーと[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、そして[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を用います。表示位置を決定したら、マウスをクリックするか [Enter]キーを押してください。設定が終わると、F3 SET のサブメニュー画面に戻ります。
PORT ID DISPLAY DURATION	ポート切替が行われた後、画面にポート ID を表示している時間を設定します。 User Defined: ユーザー設定 (1~255 秒間) Always On: ポート ID を常に表示 User Defined を選択した場合は、秒数を入力しその後[Enter]を押してください。デフォルトでは 3 秒間です。0 を選択すると、この機能を無効にします。

(表は次のページに続きます)

(F3 SET の表、続き)

設 定	機 能
PORT ID DISPLAY MODE	ポート ID 表示方法を選択します。ポート番号のみ (PORT NUMBER)、ポート ネームのみ (PORT NAME)、または、ポート番号とポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME) があります。デフォルトは、ポート番号と ポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME) です。
SCAN DURATION	オートスキャンモード (p.55 の「F7 SCAN」参照) で、各ポートに接続されたコン ピュータの表示のインターバル時間を設定します。1～255 秒までの数値を入 力し、その後[Enter]を押してください。デフォルトは 5 秒間です。0 秒で設定す ると SCAN 機能を使用不可にします。
SCAN MODE	オートスキャンモード (p.55 の「F7 SCAN」参照) で、どのコンピュータにアクセス するかを選択します。設定内容は以下のとおりです。 ALL — アクセスできるすべてのポート (p.53 の「SET ACCESSIBLE PORTS」参照) QUICK VIEW — アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポ ート (p.53 の「SET QUICK VIEW PORTS」参照) のみ POWERED ON — アクセス可能かつ接続されているコンピュータの電源が オンになっているポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON — アクセス可能でクイックビューポートとし て設定され、かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポ ートのみ デフォルトは ALL です。
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面はブラン クになります。1～30 分の時間を入力してから、[Enter]を押します。0 分で設定 するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは 0 です。
HOTKEY COMMAND MODE	ホットキー操作がコンピュータで動作中のプログラムと競合がある場合などに、 ホットキーコマンドの使用可能/不可を切り替えます。デフォルトでは ON 使用 可能になっています。

F4 ADM

F4 ADM はアドミニストレーター限定の機能です。この機能により、アドミニストレーターは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F4 ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter]を押します。

項目選択後、F4 ADM ファンクションのサブメニューが表示されます。選択したいものをダブルクリックするか、または、ハイライトバーをそこまで動かした後、[Enter]を押します。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設定	機能
SET USERNAME AND PASSWORD	この機能でアドミニストレーターおよびユーザーの、ユーザーネーム/パスワードを設定します。 1. アドミニストレーター1 人およびユーザー4 人のパスワードを設定します。 2. ユーザーフィールドまたはアドミニストレーターフィールドのうち、1 つを選択した後、ユーザーネームとパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザーネームとパスワードは英数字(A～Z, 0～9)最大 15 文字までの組み合わせが可能です。 3. 各ユーザーネームとパスワードを入力しパスワードを確定した後、[Enter]を押します。 4. 以前のユーザーネームまたはパスワードを修正・消去する場合は、文字と数字を、[Backspace]キーを用いて消してください。
SET LOGOUT TIMEOUT	この機能で設定された時間、コンソールからの入力が無い場合にそのオペレータは自動的にログアウトされます。コンソールを再び使用する前には、ログインが必要となります。 この機能は、オペレータがもうコンピュータにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合、他のオペレータがそのコンピュータにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1～180 分までの数値を入力し、[Enter]を押します。0 分で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは 0 です。

(表は次のページに続きます)

(F4 ADM の続き)

設定	機能
EDIT PORT NAMES	どのポートにどのコンピュータが接続されているか覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。この機能により、アドミニストレータはポート名前を設定したり、編集したり、削除したりすることができます。 ポート名前を編集は以下の手順で行ってください。 1. 編集したいポートをクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、[Enter]を押します。 2. 新しいポート名前を入力するか、以前のポート名前を訂正または削除してください。ポート名前の最大文字数は 15 文字で、英数字(a～z、0～9)と、記号(+、-、/、コロン、ピリオド、スペース)が使用できます。大小文字は区別されません。OSD ではポート名前はすべて大文字で表示されます。 3. ポート名前の編集を終えたら、[Enter]を押してその変更を有効にしてください。変更を途中で止める際には、[Esc]を押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES	この機能は、ポート識別を補助するポート名前の設定、およびユーザー名前/パスワードの設定を除く、すべての OSD 設定を工場出荷時のデフォルト値に戻します。(工場出荷時のデフォルト設定に関しては p.79 をご参照ください。)
CLEAR NAME LIST	ポート名前設定を削除して、工場出荷時のデフォルト値(全ポート名前無し)にします。
ACTIVATE BEEPER	ビープ音の設定を行います。Y(有)または、N(無)を選んでください。Y を選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(p.55 の「F7 SCAN」参照)が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力がされた時にビープ音が鳴ります。デフォルトは Y(有)となっています。

(表は次のページに続きます)

(F4 ADM の続き)

設定	機能
SET QUICK VIEW PORTS	どのポートをクイックビューポートとして選択するかを設定します。この機能はアドミニストレーターのみが設定できます。 注意: OSD メイン画面における LIST で選択されているポート(p.48 の「F2 LIST」参照)のみがここに表示されます。 ◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使用してハイライトバーをそこへ移動させた後、[Space] キーを押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」項目に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、何も表示されません。 ◆ LIST (p.48 の「F2 LIST」参照) でクイックビューオプションのひとつが選択された場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ オートスキャン (p.50 の「SCAN MODE」参照) でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 デフォルトはどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。
SET ACCESSIBLE PORTS	アドミニストレーターはこの機能でポートごとにユーザーのアクセス権を決定できます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、その後、[Space]キーを押して、F(フルアクセス)、V(モニタリングのみ)または、BLANK(ブランク)のいずれかの設定を行います。全てのポートに対しこの作業を繰り返してください。設定が終わったら[Esc]を押します。デフォルトでは、全てのポートが全てのユーザーに対し F(フルアクセス)となっています。 注意: ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストでも表示されません。

(表は次のページに続きます)

(F4 ADM の続き)

設定	機能
FIRMWARE UPGRADE	CL-1758 のファームウェアをアップグレードする場合(詳細は p.67 の「ファームウェアアップグレードユーティリティ」を参照)は、この項目であらかじめファームウェアアップグレードモードにしておいてください。
PORT OS	各ポートに接続されたコンピュータのプラットフォームを設定します。設定対象となるポートを選択し、 [Space] キーを押すと設定内容が切り替わりますので、 Win (PC 互換機)、 Sun 、 Mac の中から該当する内容を選択してください。各ポートへの設定が完了したら [Esc] キーを押してください。デフォルト値は Win です。
KEYBOARD LANGUAGE	アドミニストレーターはこの項目で各ポートのキーボードレイアウトを設定することができます。キーボード言語を設定する場合は、設定対象となるポートを選択し、 [Space] キーを押すと設定内容が切り替わりますので、 US English 、 Japanese 、 French の中から該当する内容を選択してください。デフォルト値は US English です。

F7 SCAN

スキャン機能では手動で切替作業をすることなく、稼動中のコンピュータを一定の間隔で自動切替、監視することができます。

- ◆ オートスキャン時に表示するコンピュータは、「F3 SET」の「SCAN MODE」(p.49 参照)の項目で選択します。
- ◆ それぞれのポートを表示する時間間隔の設定は、「F3 SET」の「SCAN DURATION」(p.50 参照)の項目で行います。
- ◆ オートスキャンモード中にアクセスされているポートは、画面上のポート ID の前に[S]マークが表示されています。
- ◆ 任意のポート表示で一時停止したい場合は、[P]キーを押す、もしくは左クリックしてください。オートスキャンモードが一時停止された状態で再び[P]キーを押す、もしくは左クリックすると、オートスキャンモードに戻ります。詳細は p.59 の「オートスキャンの起動」をご参照ください。

注意: キーボードで任意のキーを押すことによってオートスキャンモードに戻ることもできます。

- ◆ スキャンをあるポートで停止したい場合は、[Space] キーを押してオートスキャンモードを終了してください。スキャンが停止中のポートにコンピュータが接続されていない、もしくは接続されているコンピュータの電源がオフである場合は、モニタに何も表示されず、マウスとキーボードで入力しても何も反応しません。「SCAN DURATION」で設定された時間の経過後、オートスキャンは次のポートに切り替わりますので、しばらくお待ちください。
- ◆ オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無効になります。入力の必要がある場合は、[Space] キーを押してオートスキャンモードを解除してください。
- ◆ オートスキャンモードの解除は [Space] キーもしくは[Esc]キーを押すか、右クリックしてください。

第5章

ホットキー操作

CL-1758 では、バリエーションに富んだ操作性の高いホットキーによって、キーボードからの KVM スイッチの操作・管理を実現しています。

注意: ホットキーで操作を行う場合には、ホットキー機能を有効にする必要があります。詳細については p.50 の「HOTKEY COMMAND MODE」をご参照ください。

ホットキーモードの起動

すべてのホットキー操作の前には、ホットキーモード (HKM) を起動する必要があります。HKM モードには、2 種類の起動方法があり、1 つはキーボードに備え付けられている [KVM Hotkey] キー (p.86 の「ホットキーモード・OSD 専用起動キー」参照) を押すことによって起動します。2 つ目の起動方法は以下のとおりです。

1. [Num Lock] キーを押してください。
2. [Num Lock] キーを押したまま、[-] キーを押して離してください。
3. [Num Lock] キーを離してください。

この操作は [Num Lock] + [-] ; と表記されます。

注意: ホットキーモード起動用のホットキーは別のキーの組み合わせに変更することもできます。(p.60 参照)

ホットキーモードが有効である場合

- ◆ Caps Lock、Scroll Lock の各 LED が順番に点滅します。ホットキーモードを終了すると、LED は点滅しなくなり通常の点灯状態に戻ります。
- ◆ コマンドプロンプトが画面上に青色の背景に黄色い文字で画面上に表示され、入力したホットキーに関連する情報が表示されます。
- ◆ 通常のキーボードやマウスの機能がサスペンドされ、ホットキーで予約されている入力と、マウスのクリックしか受け付けなくなります。(次のセクションをご参照ください)
- ◆ ホットキーによってはホットキー操作終了時に自動的にホットキーモードを終了するものもありますが、手動でホットキーモードを終了するには、[Esc]キーまたは[Space]キーを押してください。

ホットキーによるポートアクセス

ホットキーによるポートアクセスによって、切り替えたいコンピュータのコンソールをキーボードから直接選択することができます。CL-1758 のホットキーによるポートアクセスには以下の特長があります。

- ◆ アクティブなポートの選択が可能
- ◆ オートスキャン機能搭載

アクティブポートの選択

各 KVM ポートにはユニークなポート ID が割り当てられます。(ポート ID の割り振りについては、p.43 をご参照ください)コンピュータが接続している KVM ポートのポート ID を指定するホットキーの組み合わせによって、CL-1758 に接続されているコンピュータに直接アクセスすることが可能です。

以下の手順でアクティブポートを選択してください。

1. ホットキーモードを起動します。(p.56 参照)
2. ポート ID を入力します。
入力されたポート ID はコマンドプロンプトに表示されます。入力内容を修正する場合は、**[Backspace]**キーで入力内容を削除し、正しい内容を入力しなおしてください。
3. **[Enter]**キーを押します。
[Enter]キーを押すと、選択されたコンピュータに KVM スイッチのフォーカスが移り、ホットキーモードは自動的に終了します。

オートスキャン機能

オートスキャン機能を使うと、設定された間隔で、現在ログインしているユーザーがアクセス可能で、かつ稼働中のコンピュータの KVM ポートに自動的に切り替えます。(アクセス可能なポートについては、p.50 の「SCAN MODE」をご参照ください。)

オートスキャンの起動

オートスキャンを起動するには、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動します。(p.56 参照)
2. **[A]**キーを入力します。

[A]キーを入力すると、自動的にホットキーモードを終了します。この操作でオートスキャンモードに入り、オートスキャンが開始されます。

オートスキャンモードを終了する場合は、**[Esc]**キー、または**[Space]**キーを押すか、マウスを**右クリック**してください。オートスキャンモードの終了と同時にオートスキャンも終了します。

注意: オートスキャンモードを実行中の場合、通常のキーボードやマウスの機能がサスペンドされ、ホットキーで予約されている入力と、マウスのクリックしか受け付けなくなりま
す。コンソールの通常機能をご利用になりたい場合は、オートスキャンモードを終了
する必要があります。

オートスキャンの一時停止

オートスキャンモードでは、**[P]**を入力またはマウスを左クリックすることで、スキャンを一時停止し、特定のコンピュータを選択状態にすることが可能です。オートスキャンが一時停止されている間はコマンドプロンプトに「**Auto Scan : Paused**」と表示されます。

特定のコンピュータを選択する際には、オートスキャンモードを終了し再開するのではなく、一時停止機能をご利用になる方が便利です。(一時停止した場合、前回終了したポートからスキャンを再開できるため) 一方、スキャンを再開する際にオートスキャンモードを終了する場合は、CL-1758 に接続されている一台目のコンピュータからスキャンをやり直します。

一時停止後にオートスキャンを再開する場合は、**[P]**キーを押す、または、左クリックしてください。この場合、前回終了したポートからスキャンが開始されます。

注意: 任意のキーを押すことでスキャンを再開することもできます。

ホットキーの設定

ホットキーの操作で CL-1758 の環境設定のセットアップを行うこともできます。詳細については以下の内容をご覧ください。

ホットキー起動キーの変更

デフォルトのホットキー起動キーが、お使いのコンピュータで稼働中のプログラムのショートカットキーの設定と競合する場合でもホットキーの機能がご利用できるように、ホットキー起動キーの変更をすることが可能です。

ホットキー起動キーを変更するには、下記の操作を行ってください。

1. ホットキーモードを起動します。(p.56 参照)
2. [H]キーを押して離します。

この操作で、ホットキー起動専用キーは[Num Lock] + [-]から、[Ctrl] + [F12]キーに切り替わります。

注意: この操作では、ホットキー起動専用キー([Num Lock] + [-]、または [Ctrl] + [F12])の切替を行います。デフォルトの[Num Lock] + [-]の設定に戻りたいときは、もう一度[H]キーを押して離してください。

OSD 起動キーの変更

OSD 起動専用キーは、デフォルト設定である[Scroll Lock]キーの2度押しから、[Ctrl]キーの2度押しに変更することができます。OSD 起動専用キーを変更する場合は、下記の操作を行ってください。

1. ホットキーモードを起動します。(p.56 参照)
2. [T]キーを押して離します。

-
- 注意:**
1. この操作では、OSD 起動専用キー ([Scroll Lock]キー2度押し、または[Ctrl]キー2度押し)の切替を行います。デフォルト設定である[Scroll Lock]キー2度押しに戻りたいときは、もう一度[T]キーを押して離してください。
 2. Mac コンピュータを CL-1758 に接続してお使いの場合、[Scroll Lock]キーは Mac キーボードの[F14]キーのエミュレーションに割り当てられており、OSD 起動キーとして[Ctrl]キー2 度押しのご利用を推奨いたします。
(p.64 の「キーボードエミュレーション」参照)
-

プラットフォームの設定

CL-1758 のポートに対するデフォルトキーマッピングの設定は PC 互換プラットフォーム (Win、Linux) に設定されています。この設定を変更する際には、対象となるポートを選択し、下記のホットキーを入力してください。

1. 設定対象となるポートを KVM スイッチで選択します。
2. ホットキーモードを起動します。(p.56 参照)
3. 下記の表の中から該当するキーを押して、離します。

キー	操作
[F1]	選択されたポートのキーマッピングを PC 互換に設定します。
[F2]	選択されたポートのキーマッピングを Mac に設定します。
[F3]	選択されたポートのキーマッピングを Sun に設定します。

-
- 注意:**
1. キー名の前後には便宜上カッコ () がつけられていますが、実際にホットキーとして使用する際には、このカッコを入力せず、キーを直接入力するようにしてください。
 2. 設定が終わると、ホットキーモードは自動的に終了します。
-

ビープ音の設定

ビープ音はホットキーでオン/オフの切替が可能です。以下の手順で設定してください。

1. ホットキーモードを起動します。(p.56 参照)
2. [B]キーを押して離します。

この操作によってビープ音のオン/オフを切り替えます。このとき、ビープ音がオンの場合には「Beeper On」、オフの場合には「Beeper Off」がそれぞれコマンドプロンプトに 1 秒間画面上に表示されます。メッセージが消えるとホットキーモードも自動的に終了します。

デフォルト設定の復元

CL-1758 のホットキー設定をすべてデフォルトの状態に戻すには、以下の操作を行ってください。

1. ホットキーモードを起動します。(p.56 参照)
2. [R] [Enter]を入力します。

この操作によりすべての設定変更がリセットされ、デフォルトの状態に戻ります。デフォルトの設定に関しては p.79 の「工場出荷時における OSD 初期設定一覧」をご参照ください。

ホットキー一覧表

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[ポート ID][Enter]	該当するポート ID に接続しているコンピュータを選択します。
	[A]	オートスキャンモードを起動します。 ◆ オートスキャンモードが有効になっている場合、[P]キー入力、または左クリックでオートスキャンを一時停止します。 ◆ オートスキャンが一時停止している場合に、もう一度[P]キーを入力するか左クリックすると、オートスキャンを再開します。 注意: 任意のキーの入力でスキャンを再開することもできます。
	[H]	ホットキー起動キーを[Num Lock] + [-] または[Ctrl] + [F12]に切り替えます。
	[T]	OSD 起動キーを[Scroll Lock] + [Scroll Lock] または[Ctrl] + [Ctrl]に切り替えます。
	[F1]	現在選択しているポートのキーボードマッピングを PC 互換機に設定します。
	[F2]	現在選択しているポートのキーボードマッピングを Mac に設定します。
	[F3]	現在選択しているポートのキーボードマッピングを Sun に設定します。
	[B]	ビープ音のオン/オフを切り替えます。
	[R][Enter]	ホットキーのデフォルト設定を復元します。

注意: キー名の前後には便宜上カッコ () がつけられていますが、実際にホットキーとして使用する際には、このカッコを入力せず、キーを直接入力するようにしてください。

第6章 キーボードエミュレーション

Mac キーボード

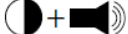
PC 互換キーボードから、キーマッピングのエミュレーション機能により Mac システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Back Space]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sun キーボード

[Ctrl]キーと他のキーを組み合わせで入力することによって、PC 互換キーボードから、キーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー([Ctrl]キー)を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

第7章

ファームウェアアップグレードユーティリティ

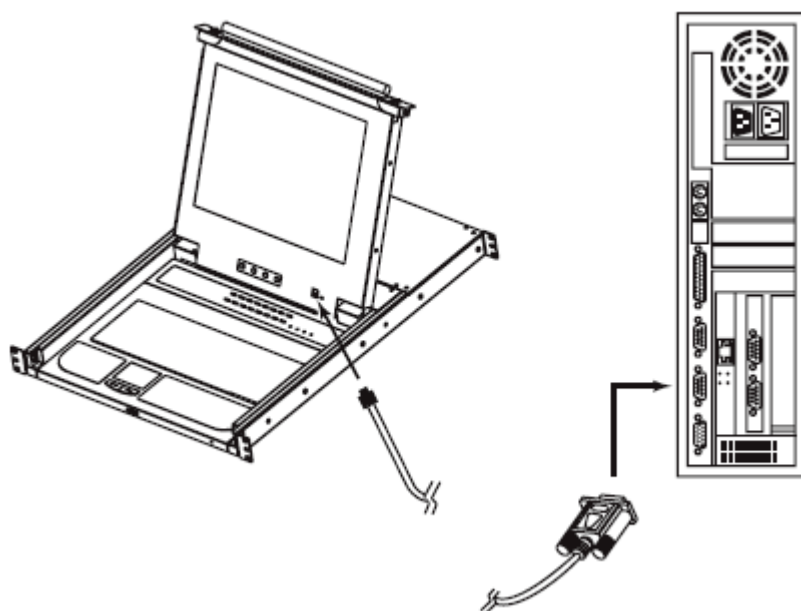
Windows ベースのファームウェアアップグレードユーティリティ(FWUpgrade.exe)を使用することで、KVM スイッチのファームウェアを自動的に簡単にアップグレードできます。

このユーティリティは製品別のファームウェアアップデートパッケージから構成されています。最新のファームウェアは ATEN Web サイトで公開しておりますので、定期的にダウンロードサイトをご覧くださいようお願い致します。 <http://www.aten.com/download/download.php>

作業をはじめる前に

ファームウェアアップグレードをはじめる前に下記のように準備してください。

1. CL-1758 に接続されていないコンピュータで弊社 Web ダウンロードサイトにアクセスしてください。型番のリストから CL-1758 を選択してください。
2. アップグレードしたいバージョンのパッケージを選択し、コンピュータにダウンロードしてください。(最新版を推奨します)
3. 製品同梱のファームウェアアップグレードケーブルを使用し、CL-1758 側ファームウェアアップグレードポートと、ファームウェアパッケージを保存したコンピュータ側 COM ポートを接続してください。

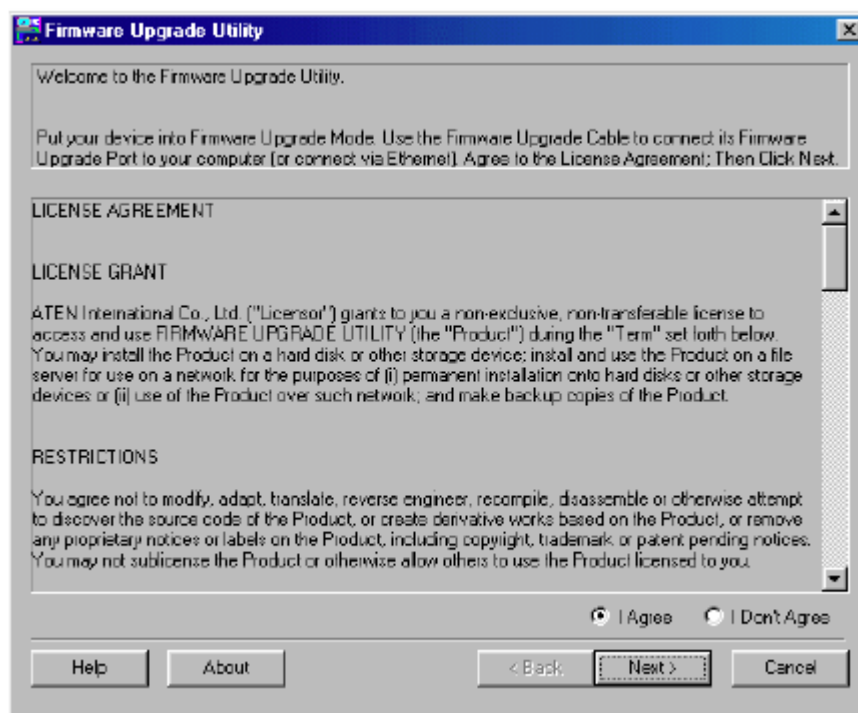


4. KVM スイッチに接続されているコンピュータをすべてシャットダウンしてください。(このときステーションはシャットダウンしないでください)
5. お使いの KVM コンソールから OSD を起動し(p.44「OSD 操作」参照)、**F4 ADM** 機能を選択してください。
6. メニュー下部にある「FIRMWARE UPGRADE」を選択し、[Enter]キーを押した後、[Y]を押してファームウェアアップグレードモードを起動します。(p.54「FIRMWARE UPGRADE」参照)ファームウェアアップグレードモードが起動すると、現在のファームウェアアップグレードのバージョンが画面に表示されます。

アップグレード作業

ファームウェアのアップグレードは、下記の手順で行ってください。

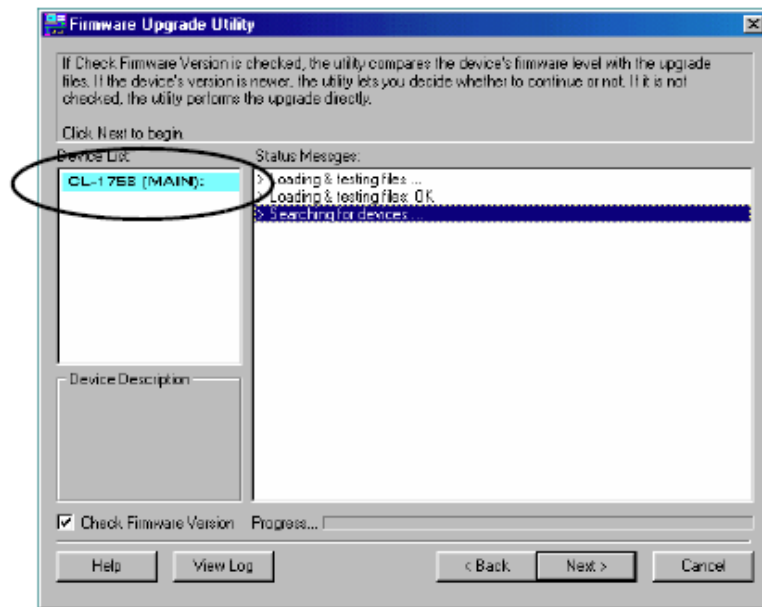
1. CL-1758 をファームウェアアップグレードモードにして、ダウンロードされたファームウェアアップグレードパッケージを実行してください。 - 保存したファイルのアイコンをダブルクリック、もしくはコマンドラインからファイルパスを入力して実行してください。
「Welcome Firmware Upgrade Utility」の画面が表示されます。



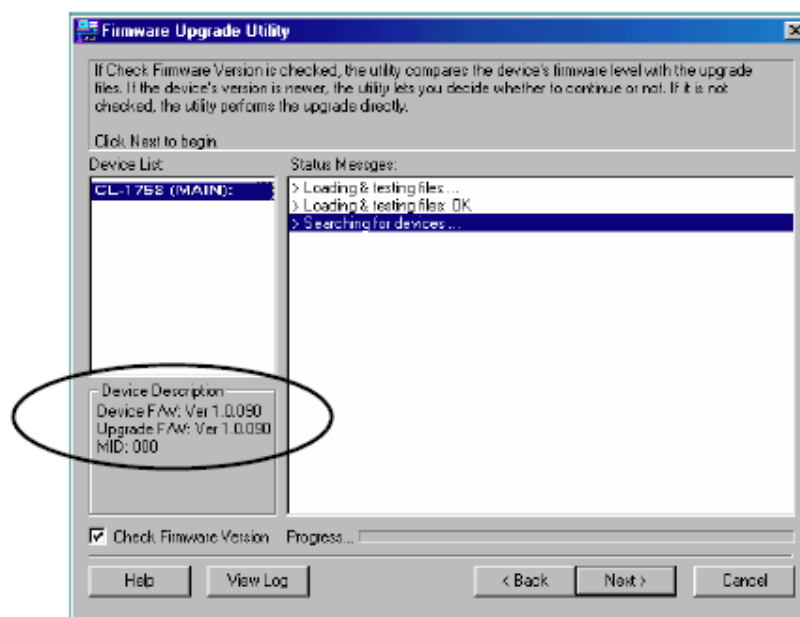
注意: この章で使用されている画面キャプチャは参考例ですので、お使いのファームウェアアップグレードユーティリティとデザインが異なる場合がございます。

2. 使用許諾契約書を読み、同意してください(「I Agree」をチェックすることで同意)。

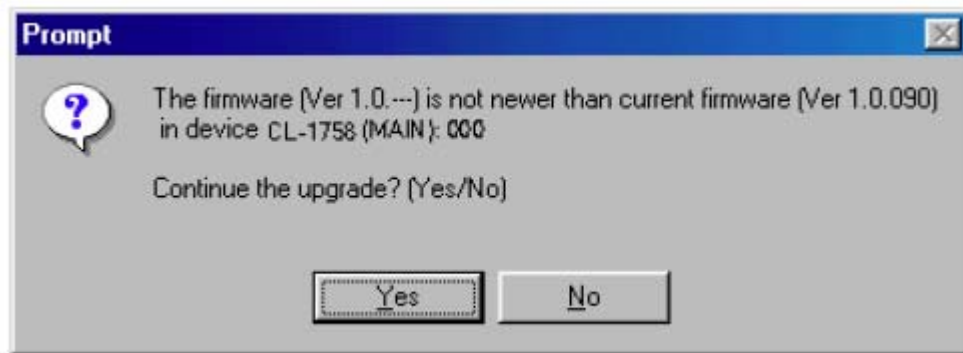
3. 「Next」ボタンをクリックしてください。ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。ユーティリティは接続先を調査し、パッケージからアップグレード可能なデバイスリストを表示します。



4. デバイスを選択すると、「Device Description」パネルに選択されたデバイスの詳細情報が表示されます。



5. デバイスを選択したら、「Next」ボタンをクリックしてアップグレードを実行します。
- 「Check Firmware Version」のチェックボックスをオンにすると、ユーティリティはデバイスのファームウェアのレベルとアップグレードファイルの比較を行います。もし、デバイスにインストールされているバージョンがアップグレードファイルのバージョンより新しい場合は、下記のダイアログが表示され、アップグレードを継続するかどうか選択できます。

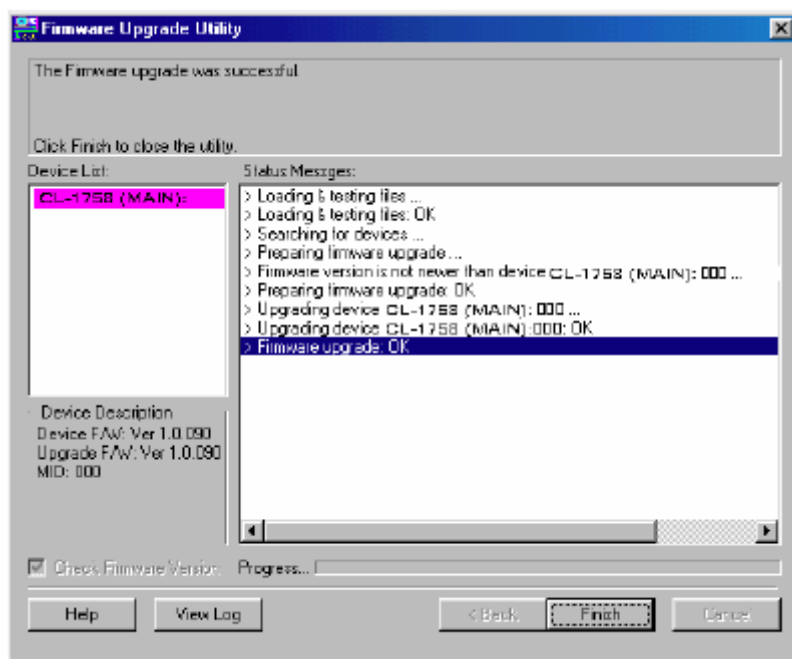


チェックボックスがオフの場合、ユーティリティはファームウェアのバージョンを確認せずアップグレードファイルをインストールします。

アップグレード進捗状況を表すメッセージがメッセージパネルに、また、進行状況がプログレスバーに表示されます。

アップグレード成功

アップグレードが完了した後、下図のようなダイアログにてアップグレードが成功したことが表示されます。



「Finish」ボタンをクリックしてファームウェアアップグレードユーティリティを閉じてください。

アップグレード失敗

アップグレード成功ダイアログが表示されない場合は、アップグレードが正常に終了しなかった可能性があります。アップグレードが正常に終了しなかった場合は、次の項に従ってファームウェアアップグレードリカバリーを実行してください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

ファームウェアアップグレードリカバリーが必要となる代表的な原因として、以下の 3 つが挙げられます。

- ◆ ファームウェアアップグレードモード(p.67 の「作業をはじめる前に」参照)を起動したが、アップグレード操作を行わなかった。
- ◆ メインボードファームウェアのアップグレードが何らかの理由で失敗した。
- ◆ I/O ボードのファームウェアのアップグレードが何らかの理由で失敗した。

ファームウェアアップグレードリカバリーを実行する場合、下記をご参照ください。

1. KVM スイッチの電源を切ってください。カスケード接続している場合は、ケーブルをはずしてください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルをファームウェアアップグレード専用ポートに接続してください。
3. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**RECOVER**」の位置に切り替えてください。
4. KVM スイッチに電源を入れ、アップグレードの手順を繰り返します。
5. スイッチのファームウェアアップグレードに成功したら、電源を切って、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**NORMAL**」の位置に戻してください。
6. カスケード接続している場合は、ケーブルをつなぎなおしてください。
7. スイッチの電源を入れてください。

これで、ファームウェアアップグレードリカバリー操作は完了です。KVM スイッチが使用可能になります。

付録

製品仕様

機能		CL-1758
コンピュータ接続数	ダイレクト接続	8
	最大(カスケード)	512
コンソール接続数		1
セカンドコンソール		1
コンピュータ側対応 インターフェース	キーボード	PS/2,USB
	マウス	
セカンドコンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2
	マウス	
ポート選択方法		プッシュボタン、ホットキー、OSD
コンピュータ側 コネクタ	キーボード	SPHD メス(イエロー)×8
	マウス	
	モニタ	
セカンドコンソール側 コネクタ	キーボード	ミニ DIN6 ピンメス×1
	マウス	ミニ DIN6 ピンメス×1
	モニタ	D-sub15 ピンメス×1
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1
	ポート選択(ポート)	プッシュボタン×8
	電源	ロッカースイッチ×1
	LCD 調整	プッシュボタン×4
	ファームウェア アップグレードスイッチ	スライドスイッチ×1
ファームウェアアップグレードポート		RJ11×1
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1

(表は次のページに続きます)

機能		CL-1758
LED	オンライン	オレンジ×8
	ポート選択(ポート)	グリーン×8
	電源	ブルー×1
	Num Lock	グリーン×1
	Caps Lock	グリーン×1
	Scroll Lock	グリーン×1
キーボード・マウスエミュレーション		PS/2,USB
スキャンインターバル		1～255 秒(ユーザー設定)/5 秒(デフォルト)
電源仕様		AC100V～240V 50Hz/60Hz
消費電力	15 インチ LCD	24.8W
	17 インチ LCD	35.8W
VGA 解像度	15 インチ LCD	最大 1,024×768 DDC2B 準拠
	17 インチ LCD	最大 1,280×1,024 DDC2B 準拠
動作環境	動作温度	0～40℃
	保管温度	-20℃～60℃
	湿度	0～80%RH 結露なきこと
ケース材料		メタル
重量	15 インチ LCD	14.5kg
	17 インチ LCD	15kg
サイズ(W×D×H)	15 インチ LCD	480×626×44mm
	17 インチ LCD	480×626×44mm

(表は次のページに続きます)

機能	CL-1758
同梱品	2L-5202U(1.8m)ケーブル×2 電源ケーブル(1.8m)×1 ファームウェアアップグレードケーブル×1 イージーセットアップラックマウントキット (ショート or ロング)×1 クイックスタートガイド×1 ユーザーマニュアル×1
対応 KVM ケーブル	《PS/2KVM ケーブル》 2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m) 2L-5702P(1.8m) 2L-5203P(3m) 2L-5206P(6m) 2L-5210P(10m) 《USBKVM ケーブル》 2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m) ＊注意：標準で USB ケーブル 2L-5202U× 2 が付属しています。
カスケード対応製品	CS-1754 CS-1758
カスケード用ケーブル	2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)

(表は次のページに続きます)

機能	CL-1758
旧 SUN システム専用ケーブル (13W3+ミニ DIN8 ピン)	CV-130A(1.8m)
新 SUN システム専用ケーブル (D-SUB15 ピン+USB)	2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)
MAC 用ケーブル	2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)

KVM スイッチ台数と接続可能なコンピュータ台数の関連表

以下の表は Master View ユニット (CL-1758 と CS-1758) の台数と、それらを組み合わせて使用した際に接続可能なコンピュータの台数の関連をまとめたものです。

MVs	Computers	MVs	Computers	MVs	Computers	MVs	Computers
1	1-8	20	134-141	39	267-274	58	400-407
2	8-15	21	141-148	40	274-281	59	407-414
3	15-22	22	148-155	41	281-288	60	414-421
4	22-29	23	155-162	42	288-295	61	421-428
5	29-36	24	162-169	43	295-302	62	428-435
6	36-43	25	169-176	44	302-309	63	435-442
7	43-50	26	176-183	45	309-316	64	442-449
8	50-57	27	183-190	46	316-323	65	449-456
9	57-64	28	190-197	47	323-330	66	456-463
10	64-71	29	197-204	48	330-337	67	463-470
11	71-78	30	204-211	49	337-344	68	470-477
12	78-85	31	211-218	50	344-351	69	477-484
13	85-92	32	218-225	51	351-358	70	484-491
14	92-99	33	225-232	52	358-365	71	491-498
15	99-106	34	232-239	53	365-372	72	498-505
16	106-113	35	239-246	54	372-379	73	505-512
17	113-120	36	246-253	55	379-386		
18	120-127	37	253-260	56	386-393		
19	127-134	38	260-267	57	393-400		

工場出荷時における OSD 初期設定一覧

CL-1758 の工場出荷時における初期設定の内容は以下のとおりです。

設定	初期値
OSDホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID表示位置	左上部
ポートID表示時間	3 秒
ポートID表示モード	ポート番号およびポートネーム
スキャン時間	5 秒
スクリーンブランカー機能	0 (無効)
ログアウトタイムアウト	0 (無効)
ビープ音	Y (有効)
アクセス可能ポート	F (全ポートに対し、全ユーザーがアクセス可能)
ホットキーコマンドモード	オン

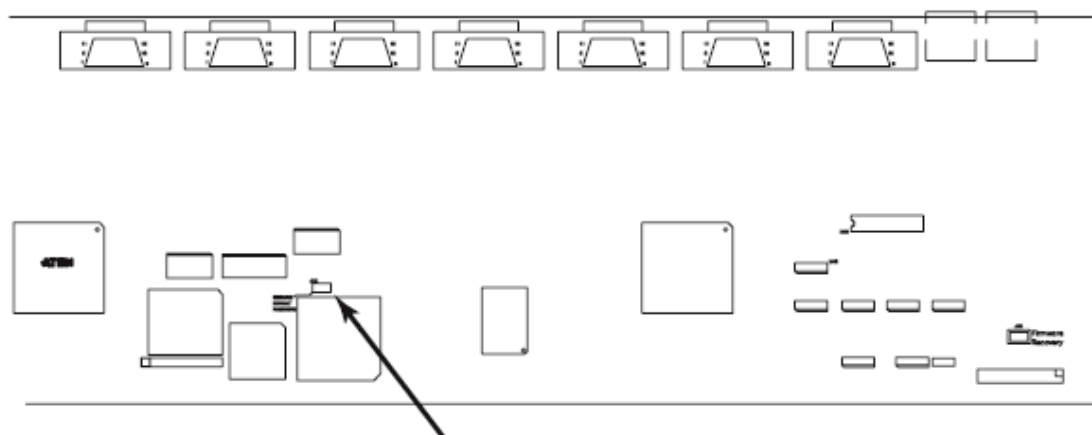
トラブルシューティング

現象	対処法
コンピュータを起動したときにキーボード、マウスが動作しない。	お使いのコンピュータのキーボード・マウスのインターフェースが PS/2 ポートで、2L-520xP 系のケーブルをお使いの場合、コンピュータに電源を入れる前にキーボード、モニタ、マウスの各ポートにケーブルが接続されていることを確認してください。コンピュータが起動してからケーブルを接続しても、キーボード・マウスはお使いになれませんので、ご注意ください。
Sunキーボードをエミュレートすると、OKモード([Stop][A])を開始できない。	OK モードを開始する場合は、以下の手順で行ってください。 1. [Ctrl]キーを押して離します。 2. [T]キーを押したままにします。 3. [A]キーを押したままにします。 4. [T]キーと[A]キーを同時に離します。
LCDの自動調整ボタンを押すと、表示画面が乱れる	ディスプレイのバックグラウンドの色が黒に設定されている場合にこの現象が発生します。バックグラウンドの色を黒以外に変更してください。

ログイン情報の削除

入力したユーザー名とパスワードの情報が間違っている、ユーザー名とパスワードを忘れたなどの理由でアドミニストレーターでのログインが実行できない場合、以下の手順でログイン情報を削除してください。

1. CL-1758 の電源を切り、ユニットシャシーから上部カバーをはずします。
2. スイッチのメインボード上の「Restore Default Password」と書かれてあるジャンパをショートさせます。



3. CL-1758 に電源を入れます。
電源を入れると以下のメッセージが LCD 画面に表示されます。
 USERNAME AND PASSWORD INFORMATION HAS BEEN CLEARED.
 PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE
 THE CASE, THEN RESTART.
4. 電源を入れなおすと OSD のログイン機能が工場出荷時の初期設定にしたがって起動し(p.44「OSD 操作」参照)、アドミニストレーター・ユーザーのパスワードともにリセットされます。

イージーセットアップラックマウントキット

イージーセットアップラックマウントキットは、標準キットに比べて非常に簡単に製品のマウント作業ができるように設計されたものです。対応ラックの仕様は下記をご参照ください。

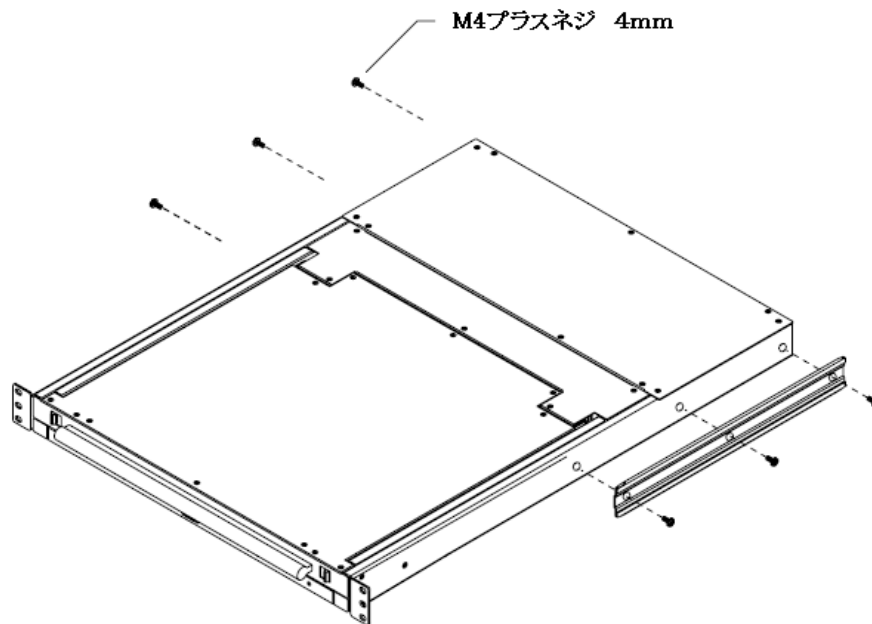
KVM 型番	レールキット	対応ラック奥行き (取付支柱間の距離)
CL-1758LJJS CL-1758MJJS	イージーセットアップ ラックマウントキット/ショート	42cm～70cm
CL-1758LJL CL-1758MJL	イージーセットアップ ラックマウントキット/ロング	68cm～105cm

注意: ラックマウントキットの対応奥行き表示は、ラック取付支柱間の距離を表しています。実際のラックマウント作業の際には、ラック内寸に対するドロワー本体の奥行きやケーブル取り回しを考慮する必要がありますのでご注意ください。

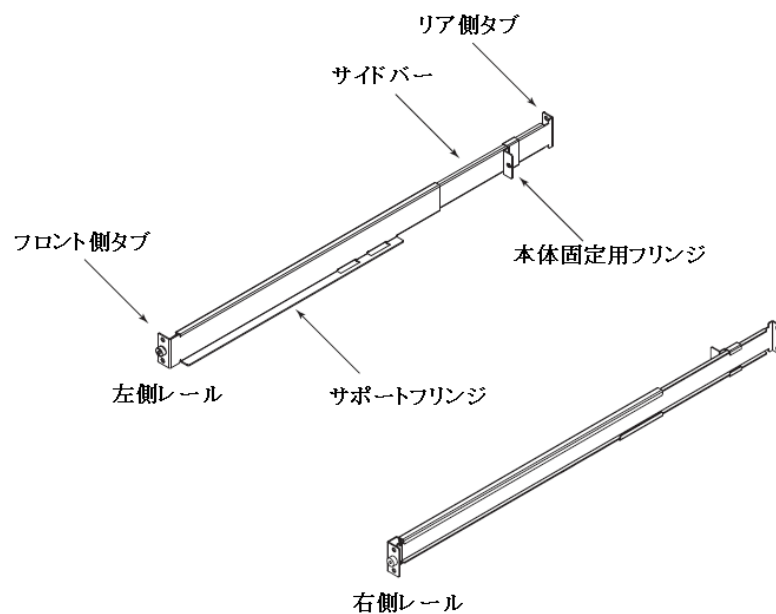
ロングレールキットの標準ラックマウントキットを取り付けるには、同梱のショートレールをロングレールに交換し、マニュアルの内容に沿って CL-1758 を取り付けるだけです。詳細については p.27 の「標準ラックマウントキット」をご参照ください。

イージーセットアップラックマウントキットを使って作業を行う場合、一人で CL-1758 を取り付けることが可能です。イージーセットアップラックマウントキットを使用してのマウント作業は下記の手順に従ってください。(ショート/ロング共通)

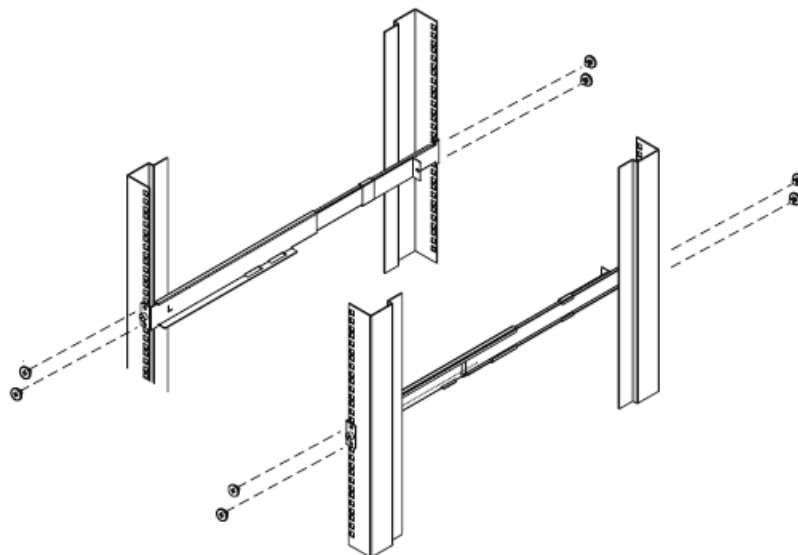
1. CL-1758 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されています。イージーセットアップラックマウントキットを使用する前に、本体側 標準レールを取り外してください。外したネジとレールは標準レールキットを使用する際に必要になるので、保管しておいてください。



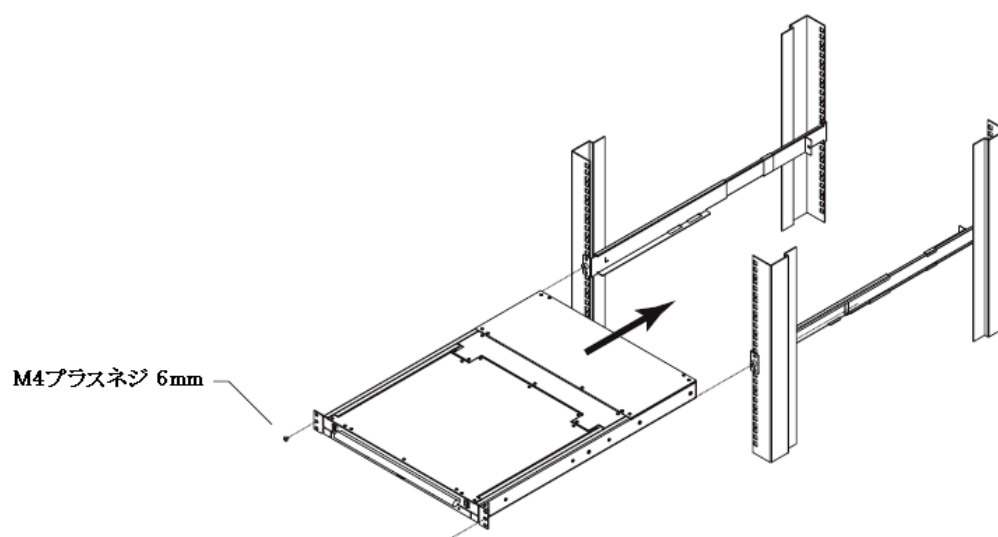
2. 同梱品箱に収められているイージーセットアップラックマウントキットを取り出し、レールの左右前後を確認してください。



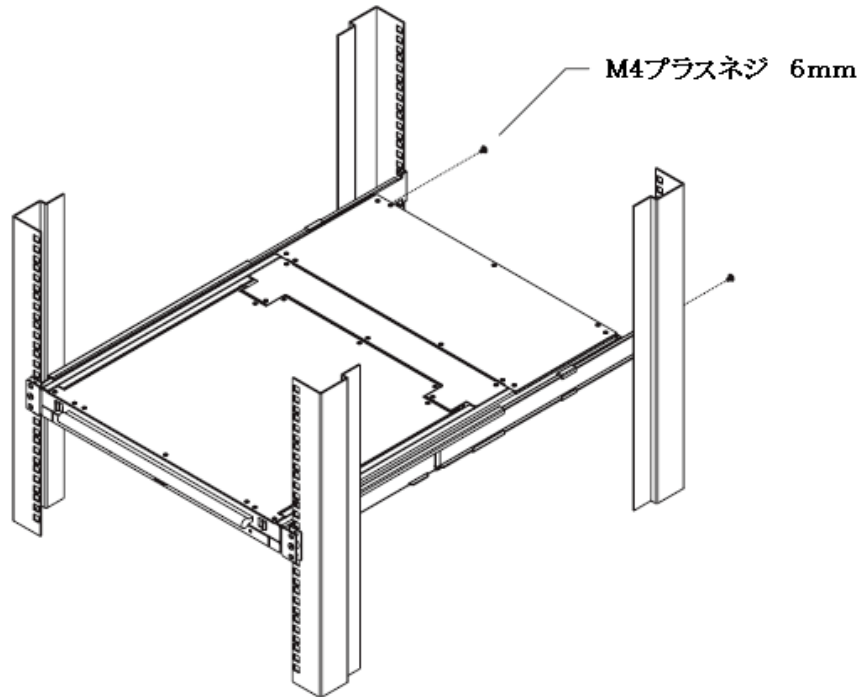
- a) イージーセットアップラックマウントキットは、レールのみを先にラックへ取り付けます。はじめにフロント側タブをラックにネジ止めしてください。
- b) サイドバーを調整しラックの支柱に合わせ、リア側タブをラックにネジ止めしてください。



3. サポートフリンジに支えられるようにしながら、CL-1758 をラックのフロント側からスライドさせていきます。フロントタブが重なる位置まで押し入れたら、ネジ止めしてください。(ネジの本締めは次の手順で行ってください)



4. 本体固定用フリンジをスライドさせ、タブが製品リアパネルに接触するように調整し、ネジ止めしてください。取付位置に問題がなければ、4ヶ所のネジを本締めしてください。



5. LCD パネル/キーボードパネルを引き出してみ、問題なくオペレーションが行えることを確認してください。(パネルの開閉操作の手順については p.35 の「コンソールを開く」、p.36 の「コンソールを閉じる」の内容をご参照ください。)
6. 最後にすべてのネジがしっかりと止められていることを再確認してください。

ok プロンプトの起動 (Sun Solaris)

PC 互換のキーボードで Sun Solaris のコンピュータを操作し、Stop-A キーで ok プロンプトを起動する場合は、以下の操作を行ってください。

注意: ok プロンプトを起動する前に、Sun Solaris のコンピュータのマニュアルで注意事項を確認し、必要な作業がある場合は、手順に従って準備をしてください。

[Ctrl]キーを一度押して離した後、[T]キーを押しながら[A]キーを押してください。

ホットキーモード・OSD 専用起動キー

ホットキーモードと OSD がそれぞれ簡単に起動できるように、以下のような2つの専用キーがキーボードパネル側に設けてありますので、ご利用ください。



注意: これらの専用キーはトグルボタンですので、1回目に押すと、各メニューを起動し、2回目に押すとその機能を終了します。

SPHD コネクタについて



本製品は KVM ポート、またはコンソールポートに対して SPHD コネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用の KVM ケーブルのみ製品に接続することが可能です。